# 公益社団法人日本地球惑星科学連合
# 2019 年度　定時社員総会
# 資料

日　　時　2019 年 5 月 28 日（火）15：30～16：30
場　　所　幕張メッセ国際会議場 2 階コンベンションホール A
（〒261-0023 千葉市美浜区中瀬 2-1）

1. 会長挨拶
2. 定数確認
3. 議長選任

目的事項

報告事項

(1)　平成 30 年度　活動報告概要
(2)　グローバル戦略委員会からのメッセージ
(3)　ORCID に関する報告
(4)　平成 30 年度（公益社団法人第 8 期）事業報告の件
(5)　2019 年度（公益社団法人第 9 期）事業計画書及び収支予算書等の件
(6)　その他

決議事項

(1)　第 1 号議案　平成 30 年度（公益社団法人第 8 期）決算承認の件

資料


１．平成 30 年度事業報告 ..... P. 1～32
２．2019 年度事業計画書 ..... P. 33～48
３．2019 度収支予算書 ..... P. 49～50
４．平成 30 度決算報告書 ..... P. 51～
(1) 貸借対照表 ..... P. 51
(2) 正味財産増減計算書 ..... P. 52～53
(3) 正味財産増減計算書内訳表 ..... P. 54～55
(4) 財産目録 ..... P. 56
(5) 財務諸表に対する注記および附属明細書 ..... P. 57～58
(6) 監査報告書 ..... P. 59～61

# 平成 30 年度

# 事業報告

自　平成 30 年 4 月 1 日

至　平成 31 年 3 月 31 日

公益社団法人日本地球惑星惑星科学連合

〒113-0032　東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階
電話：03-6914-2080　　Fax：03-6914-2088

# 平成30年度　事　業　報　告

公益社団法人第8期（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

公益社団法人日本地球惑星科学連合が定款に定める事業の概要は以下の６通りである。

１．地球惑星科学に関わる研究発表会及び国際会議等の開催
（１）日本地球惑星科学連合大会（連合大会）の開催［定款第５条（１)］
（２）公開プログラム「高校生によるポスター発表」の開催　［定款第５条（１)、(２)］
（３）一般公開講演会の開催［定款第５条（２)］
（４)「スペシャルレクチャー」の開催［定款第５条（２)］
（５）地球惑星科学関連の研究教育機関・学協会・プロジェクト・民間企業の紹介および展示、地球惑星科学関連書籍・機器・資料の展示・頒布［定款第５条（７)］

２．学会誌その他の刊行物の発行と情報発信
（１）学術雑誌等の出版の高度化　［定款第５条（２)］
（２）加盟学協会による学術誌等の出版推進［定款第５条（２)］
（３）ニュースレター誌「Japan Geoscience Letters (JGL)」の発行［定款第５条（２)］
（４）ウエブ、メールニュースを活用した広報・普及事業　［定款第５条（２)］

３．地球惑星科学コミュニティーの意見集約と国および社会一般への諸要請への対応
（１）学協会長会議の開催［定款第５条（３)］
（２）地球惑星科学コミュニティーの意見集約［定款第５条（３）(６)］

４．地球惑星科学に関わる外国学協会との連携と国際プロジェクトの推進
（１）地球惑星科学に関わる国際学協会との連携及び協力［定款第５条（４)］
（２）国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援［定款第５条（２)］

５．地球惑星科学知見の社会還元
（１）複合的自然災害への対応と科学的提言の発信［定款第５条（５)］
（２）複合的自然災害リテラシーの普及［定款第５条（５)］

６．委員会等活動
（１）セクション・サイエンスボード活動［定款第５条（３）(６)］
（２）顕彰制度［定款第５条（１）(２)］
（３）各種委員会活動　［定款第５条（１）～（７)］

以下に、個別の事業の状況について述べる。

## 1. 地球惑星科学に関わる研究発表会及び国際会議等の開催

地球惑星科学の一層の発展に寄与することを目的とし、当該科学に関連する研究、教育に携わる、あるいは関心を持つ全ての人々を対象に、公開で学術大会を開催し、学術講演、ポスター発表による関連分野の研究発表、情報交換の場を設けることを目的として、日本地球惑星科学連合大会（以下、「連合大会」という。）を開催した。連合大会の開催に関連して、講演募集、プログラム編成、ユニオン・パブリックセッションの設定、アウトリーチプログラムの企画等、に関わる事業を行った。

### （1）日本地球惑星科学連合 2018 年大会の開催

会　期：2018 年 5 月 20 日(日)～24 日(木) 5 日間
会　場：幕張メッセ（国際会議場、国際展示場 7 ホール)、東京ベイ幕張ホール
大会委員長：齋藤 文紀（島根大学／産業技術総合研究所）
主　催：日本地球惑星科学連合
後　援：46 団体
協　賛：日本高圧力学会、日本サンゴ礁学会、公益社団法人 日本天文学会、
公益社団法人 日本地震工学会、公益社団法人 土木学会、
公益社団法人 地盤工学会、公益社団法人 日本地すべり学会、公益社団法人砂防学会

□ 開催セッション数：230

| セッションカテゴリー | 開催数 |
|---|---|
| U: ユニオン | 8 |
| O: パブリック | 7 |
| P: 宇宙惑星科学 | 23 |
| A: 大気水圏科学 | 44 |
| H: 地球人間圏科学 | 30 |
| S: 固体地球科学 | 66 |
| B: 地球生命科学 | 9 |
| G: 教育アウトリーチ | 3 |
| M: 学際・広領域 | 40 |
| 計 | 230 |

参考：過去開催セッション数：2017 年 253 件、2016 年 194 件、2015 年 189 件、2014 年 193 件、2013 年 180 件、うち、国際セッション数：2016 年 63 件、2015 年 55 件、2014 年 43 件、2013 年 42 件、2012 年 42 件

□ 講演投稿数

・発表論文数：5001 件（2017 年 5645 件、2016 年 4515 件,　2015 年 4037 件, 2014 年 3806

件，2013 年 3980 件）

口頭発表　2691 件

（2017 年 286 件、2016 年 2435 件，2015 年 2545 件，2014 年 2428 件，2013 年 2226 件）

ポスター　2310 件

（2017 年 2778 件、2016 年 2080 件，2015 年 1492 件，2014 年 1378 件，2013 年 1754 件）

□ 参加者数

参加者数：7968 名

（2017 年 8450 名，2016 年 7240 名，2015 年 6689 名，2014 年 7046 名）

・参加登録者数：6234 名

一般 3720，小中高教員 46，大学院生 1488，シニア 153，学部生 796，

高校生 31

・同伴者数：27 名

・アウトリーチ参加者数：1124 名

・出展関係者数：368 名

・ゲスト：82 名

・プレス：72 名

・ボランティア：50 名

・スタッフ：11 名

（2）公開プログラム「高校生によるポスター発表」の開催

連合大会において、高校生を対象とした公開プログラム「高校生によるポスター発表」を開催し、高校生の研究成果発表に対して研究者や一般の参加者が聴講し意見交換を行ない、また優秀発表を表彰した。

開催日：2018 年 5 月 20 日（日）

場　所：幕張メッセ国際会議場

主　催：公益社団法人日本地球惑星科学連合　広報普及委員会

実施責任者　広報普及員会副委員長　原　辰彦（国立研究開発法人建築研究所）

発表数：77 件

参加高校 47 校（発表順）

長野県松本深志高等学校、長野県飯山高等学校、東京都立多摩科学技術高等学校、池田学園池田高等学校、鹿児島玉龍高等学校、栄東高等学校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校、宮城県利府高等学校、兵庫県立西脇高等学校　地学部、兵庫県立加古川東高等学校、長野県諏訪清陵高等学校、福井県立藤島高等学校、札幌日本大学高等学校、逗子開成高等学校、福井県立若狭高等学校、長野県屋代高等学校、海城高等学校、群馬県立太田女子高等学校、マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ・シニア、宮城県古川黎明中学校・高等学校、静岡県立磐田南高等学校、茨城県立日立第一高等学校、兵庫県立神戸高等学校、千葉県立長生高等学校、群馬県立前橋女子高等学校、岐阜県立岐山高等学校、

福島県立磐城高等学校、愛知県立一宮高等学校、鳥取県立鳥取東高等学校、北海道室蘭栄高等学校、京都府立嵯峨野高等学校、愛媛県立今治東中等教育学校、大阪府立大手前高等学校定時制の課程/大阪府立春日丘高等学校定時制の課程、香川県立三本松高等学校、本郷高等学校、山梨県立日川高等学校、静岡県立韮山高等学校、宮城県多賀城高等学校、高知県立高知小津高等学校、福島県立福島高等学校、千葉県立柏高等学校、大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎、埼玉県立所沢高等学校、狭山ヶ丘高等学校、滝学園　滝高等学校

最優秀賞（1件）

大阪府立大手前高等学校定時制の課程/大阪府立春日丘高等学校定時制の課程
『3 力のつりあいと永久磁石を用いた常磁性磁化率の測定 第 2 報』

優秀賞（4件）

札幌日本大学高等学校『ネオジム磁石球を用いた地磁気の測定』
福井県立若狭高等学校『「鳥浜における縄文人の出現」～炭化片・花粉分析を用いた縄文草創期の人間活動の検証～』
海城高等学校『東京都新宿区落合地域における水文地質的構造の推定』
静岡県立韮山高等学校『古狩野湾復元のための土壌および遺伝子試料分析手法の検証と試行』

奨励賞（7件）

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校『地球影～誰彼刻を追ふ～』
兵庫県立加古川東高等学校『花崗岩体での植生による土砂災害抑制効果と危険地域の指摘』
長野県諏訪清陵高等学校『毒沢鉱泉の泉質についての研究』
愛媛県立今治東中等教育学校『年輪幅年々変動から近世の気候を推測する試み』
大阪府立大手前高等学校 定時制の課程『毛細管現象の重力項を検討する』
大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎『クレーターに伴うレイの構造の解明』
埼玉県立春日部高等学校『火炎構造の再現実験と立体復元図の作成』

（3）一般市民向け公開講演会の開催

社会に対する地球惑星科学関連の研究成果の広報・普及活動を通して、地球惑星科学の発展に資するとともに、安全・安心な社会の構築に寄与することを目的に、一般市民向け講演会を開催した。5 月の連合大会においてパブリックセッションを開催するとともに、12 月には「高校生のための冬休み講座 2018」を開催した。

連合大会パブリックセッション

開催日：2018 年 5 月 20 日（日）連合大会開催期間中

場　所：幕張メッセ国際会議場

1.「これからの高校における地球惑星科学教育―「地理総合」と「地学基礎」―」

2.「高校生によるポスター発表」

3.「地球・惑星科学トップセミナー」
4.「研究者のためのメンタルケアとコミュニケーション術」
5.「キッチン地球科学　-手を動かして頭脳を刺激する実験-」
6.「ジオパークがつなぐ地球科学と社会　ー10 年の成果と課題ー」
7.「地球科学とアートの協働・共創」

NASA/JAXA ハイパーウォール講演会
開催日：5 月 20 日(日), 21 日(日), 24 日(水)
場　所：幕張メッセ国際展示場
講　師：Michael Freilich, James Green, George Huffman ほか

日本地球惑星科学連合高校生のための冬休み講座 2018
開催日：12 月 27 日(木) 13:00-16:00
場　所：東京大学本郷キャンパス　理学部 1 号館 2F 小柴ホール
講師：臼井寛裕(宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所)「火星の水と表層環境の進化史」
　　高野淑識(東京大学)「始原的な気体「メタン」と地球生命科学の未来」

（4）地球惑星科学関連、教育機関、学協会、プロジェクトの紹介・展示、地球惑星科学関連資料・書籍の展示・頒布

地球惑星科学に関連した教育機関、学協会、ならびに各種プロジェクトについて、関係者のみならず、高校生を含む一般に紹介・広報することを目的に、プロジェクトを推進する諸機関、団体に対して連合大会会場にて展示活動を支援する場を設けた。これらの紹介・展示に関わる募集活動、展示準備作業等を行った。

また毎年、多数の地球惑星科学に関連する書籍、資料が公刊されているが、それらに対するアクセスは必ずしも容易ではないことから、連合大会の折に、これらを多数展示し、頒布するための場を設けて、地球惑星科学関連の研究、教育に携わる人々や、高校生を含む一般の方々に利用促進をはかった。これらの活動に必要な手配や現場での作業を行った。

一般展示　：70 ブース（2017 年 74, 2016 年 68, 2015 年 65）
大学パネル：12 ブース（2017 年 11, 2016 年 10, 2015 年 11）
書籍・関連商品：26 ブース（2017 年 30, 2016 年 26, 2015 年 26）
パンフレットスタンド：8 ブース（2017 年 9, 2016 年 5, 2015 年 7）
学協会デスク　：13 ブース（2017 年 13, 2016 年 11, 2015 年 10）
Special Exhibition 6 ブース
特別カウンター展示　5 ブース

## ２．学会誌その他の刊行物の発行と情報発信

（1）学術雑誌等の出版の高度化

2014 年 4 月に初版が発刊された連合のオープン・アクセス（OA）電子ジャーナル「Progress in

Earth and Planetary Science (PEPS)」の編集・出版事業を通じて国際情報発信力強化に取組んだ。

ジャーナルの影響度を測る代表的な評価指標である Clarivate Analytics(旧 Thomson Reuter)のインパクトファクター（IF)、及び Elsevier/SCOPUS の CiteScore を取得した。初回数値として、それぞれ 2.481 と 2.52 を得て、地球惑星科学分野の一流ジャーナル誌に近い値となった。これを受け、メール配信サービスや国際学会での広報、連合会員向けのメールなどを通じて IF 取得と投稿依頼をアピールした。

また、IF 取得とジャーナルの認知度を高めるために、EGU, AOGS, AGU 等の国際会議へのブース出展や、連合参加学会が主催する会議に紹介を依頼するなどして、広報活動に努めた。さらに、ジャーナルの活性化を図るための表彰制度により、アクセス数の多い論文を表彰する Most Accessed Paper 賞、被引用数の多い論文を表彰する Most Cited Paper 賞を設けて表彰した。また、ホームページを充実し、日本語 Abstract や SNS を活用して出版論文を紹介し、著者宛メール配信なども実施して引用促進にも取組んだ。この結果、出版開始から 4 年半で 240 本を超える論文を出版し、IF 取得発表以降は、会員以外の一般著者からの論文投稿が 4 割を超えるまでになった。

また、PEPS への論文投稿及び引用を促進するための施策として、一般投稿も受け付ける開放型特集号 SPEPS (SPecial call for Excellent Papers on hot topicS) の推進、平成 28 年度に投稿受付を開始したデータパブリッシング(Paper with Full Data Attached)の本格運用を開始した。

（2）出版事業の経営強化

PEPS では主に科研費補助金を活用して APC（論文掲載料）の補助や出版論文の英文校閲を行ってきたが、英文校閲の著者負担化と補助額の減額を実施し、連合負担分を縮小した。この結果、著者負担が増加したが、IF 取得による PEPS のステータス向上もあり、投稿数の減少といった大きな影響は発生していない。また、出版社(SpringerNature 社)との契約更新により、1 月から APC の増額を実施し、長期的には、連合の負担なしに出版事業を遂行できる体制基盤を整えつつある。

（3）加盟学協会による学術誌等の出版推進

連合ロゴを掲載する連合加盟学協会の国際誌を中心に、JpGU-AGU Joint Meeting 2018 におけるポスター展示、連合のホームページ上での紹介、国内や海外で開催された国際学術大会で連合出展ブースにおいて展示紹介などを行い、地球惑星科学及び関連科学の学術出版物の広報普及支援を実施した。

また、関係他誌と連携方針について合意し、H31 年度から開始する新たな科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の公募申請を共同で行った。

（4）ニュースレター誌「Japan Geoscience Letters (JGL)」の発行

研究の推進から得られた科学的成果を広く地球惑星科学コミュニティ及び社会一般に広報し、普及させることを目的とするニュースレター誌「JGL」を昨年同様に年間 4 号定期発行した。ニュースレター誌「JGL」の発行日、部数は以下のとおりである。

| 発行日 | No. | 発行部数 |
|---|---|---|
| 平成 30 年　5 月 1 日 | Vol. 14 No. 2 | 30,000 部 |
| 平成 30 年　8 月 1 日 | Vol. 14 No. 3 | 25,600 部 |
| 平成 30 年 11 月 1 日 | Vol. 14 No. 4 | 10,000 部 |
| 平成 31 年　2 月 1 日 | Vol. 15 No. 1 | 10,000 部 |

（5）ウェブ、メールニュースを活用した広報・普及事業

連合ウェブサイトや毎月定期配信を行う連合メールニュース等を通して、地球惑星科学に関連する各種ニュースとともに、国内外の学会、シンポジウム、研究集会、公開イベントの情報や、求人・公募情報等の情報提供を行った。今期は、基幹となるウェブシステムをリニューアルするとともに、毎月、定期的に連合メールニュースを配信した。

| 発行日 | No. | 種別 |
|---|---|---|
| 2018 年 4 月 10 日 | No.307 | 4 月号 |
| 2018 年 4 月 20 日 | No.308 | 臨時号 |
| 2018 年 5 月 10 日 | No.309 | 5 月号 |
| 2018 年 5 月 11 日 | No.310 | 臨時号 |
| 2018 年 5 月 28 日 | No.311 | 臨時号 |
| 2018 年 6 月 11 日 | No.312 | 6 月号 |
| 2018 年 7 月 10 日 | No.313 | 7 月号 |
| 2018 年 8 月 10 日 | No.314 | 8 月号 |
| 2018 年 9 月 10 日 | No.315 | 9 月号 |
| 2018 年 10 月 10 日 | No.316 | 10 月号 |
| 2018 年 11 月 12 日 | No.317 | 11 月号 |
| 2018 年 12 月 10 日 | No.318 | 12 月号 |
| 2019 年 1 月 10 日 | No.319 | 1 月号 |
| 2019 年 2 月 10 日 | No.320 | 2 月号 |
| 2019 年 3 月 10 日 | No.321 | 3 月号 |

## 3．国及び社会一般からの諸要請に対応した地球惑星科学コミュニティーにおける意見集約とこれに基づく提言

地球惑星科学コミュニティーの意見を集約するとともに、日本学術会議を含む国及び社会一般への諸要請への対応に関わる要請に対応するために、以下の活動を行なった。

（1）学協会長会議の開催

国内の地球惑星科学及び関連分野の研究者を対象に、学協会長会議を年に２回開催して、地球惑星科学コミュニティーの意見集約を行うとともに、自然科学に関わる国内外の情勢についての情報交換を行なった。連合理事会からの諮問、及び学協会や日本学術会議から提案される重要な

課題について議論し、意見集約と対外的情報発信を行なった。

第 18 回学協会長会議
期日：2018 年 5 月 22 日（火）（連合大会会期中）
場所：幕張メッセ国際会議場 101 号室

第 19 回学協会長会議
期日：2018 年 10 月 5 日（金）
場所：東京大学地震研究所　2 号館セミナー室

（2）地球惑星科学コミュニティーの意見集約

国及び社会一般からの諸要請に基づき、地球惑星科学コミュニティーの意見集約と、コミュニティーへの情報伝達を行なった。特に、日本学術会議が発出する声明を連合ウェブやメールニュース、関連メーリングリストを通じて地球惑星科学コミュニティーへの周知をサポートした。

また、学術会議からの依頼に基づき連合大会会期中に全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会を開催した。

全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会
日　　時：　2018 年 5 月 20 日(日)（連合大会会期中）
場　　所：　幕張メッセ　国際会議場 106 号室
主　　催：日本学術会議地球惑星科学委員会、日本地球惑星科学連合
内　　容：全国の地球惑星科学系専攻長・学科長が一同に会し、地球惑星科学系大学の発展と大学院教育の在り方についての情報交換。

**4．地球惑星科学に関わる外国学協会との連携と国際プロジェクトの推進**

（1）地球惑星科学に関わる国際学協会との連携及び協力

我が国の地球惑星科学コミュニティーを代表して、地球惑星科学に関する国際的な研究協力、交流の推進を図るために、ヨーロッパの EGU、米国の AGU、アジアの AOGS 等の国際的な学協会と連携協力しながら、地球惑星科学の発展に資する活動を行い、地球惑星科学に関わる国際会議等の企画、開催、国際的プロジェクトの支援等を行うための準備を進めた。AGU、EGU、AOGS とは、それぞれが主催する学術大会において共通のセッションを設けた。また、海外で開催される関連学会において、ブースを設置し、日本国内で得られた成果に関する広報、資料頒布等の海外学会展示を実施した。

| 開催日 | 出展大会名 | 開催場所 |
|---|---|---|
| 2018 年 4 月 8 日～4 月 13 日 | EGU General Assembly 2018 | ウィーン（オーストリア） |
| 2018 年 6 月 3 日～6 月 8 日 | AOGS 15th Annual Meeting | ホノルル（アメリカ合衆国） |
| 2018 年 12 月 10 日～12 月 14 日 | AGU 2018 Fall Meeting | ワシントンＤＣ（アメリカ合衆国） |

（2）国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援

国際地学/地理オリンピックなどの国際的な活動を通じて、多くの高校生がサイエンスにより深く触れる機会を提供することを目的に、以下の国際科学オリンピック事業に関連する支援と活動を進めた。

1）国際地学オリンピック活動支援

・2018 年 8 月 8 日から 17 日までタイ・カンチャナブリーにて第 12 回国際地学オリンピック・タイ大会が 38 か国・地域、139 名の選手が参加して開催された。日本は金メダル 3、銀メダル 1 の成績で、金メダル獲得による国別順位はアメリカ（金メダル 4）に次ぐ 2 位であった。
・2018 年 12 月 16 日に全国の会場で、第 11 回日本地学オリンピック予選（兼第 13 回国際地学オリンピック・韓国大会一次選抜）を行った。
・2019 年 3 月 10 日から 12 日につくば市で開催された第 11 回日本地学オリンピック本選にて、「日本地球惑星科学連合賞」として、本選で最優秀成績を獲得した女性に賞状ならびに記念品の授与を行い、参加高校生のモチベーションの向上を図り、本活動への支援を強化した。

2）国際地理オリンピック活動支援

・2018 年 7 月 31 日から 8 月 6 日までカナダ・ケベック州で開催された世界大会に、日本代表選手 4 名を派遣した。大会には 43 か国・地域から合計 167 名の高校生が参加した。本年度の日本選手は，残念ながらメダル獲得には至らなかった。国・地域別の総合順位は 31 位であった。また，ポスター部門においても，全体で 31 位の成績に終わった。
・2018 年 12 月 15 日に全国の会場で第 13 回科学地理オリンピック日本選手権大会及び第 16 回国際地理オリンピック世界大会（香港・中国）の第 1 次選抜試験（マルチメディアテスト）を行った。
・2019 年 2 月 17 日に第 2 次選抜試験（記述式テスト）を、2019 年 3 月 9 日～10 日に第 3 次選抜試験（フィールドワークテスト）を実施した。
・2019 年 3 月 21 日に開催された日本地理学会総会（専修大学生田キャンパス）において，世界大会派遣選手 4 人の表彰を行った。

## ５．地球惑星科学知見の社会還元

防災学術連携体と共同して防災推進国民大会などで科学的提言を発信し、地球惑星科学が災害の理解と被害の軽減によって社会に貢献する道を示した。

## ６．セクション・サイエンスボード、及び委員会等活動

（1）サイエンスボード活動

多様な分野を含む地球惑星科学を一定の基準のもとにくくり、各々の分野の更なる発展をめざすサイエンスボードを組織して、個々のサイエンスを長期的な視点から、強力に支援する活動を推進した。

□ 宇宙惑星科学セクション

・2018 年 5 月 23 日(水) 17:15−18:15 の間、幕張メッセ国際会議場の 201A 号室で本年度最初のサイエンスボードミーティングを開催し、セクションボード活動の方向性やアクションについて議論した。また 10 月 3 日（水）17:00-19:00 及び 10 月 11 日（木）8:30-10:00 にビデオ会議システム使ったボードミーティングを開催し、夢ロードマップの改訂を検討した。3 月中に、日帰り形式のボード会議（午前及び午後）を東京で開催する予定である。

・連合大会では宇宙惑星科学関連 23 セッションを開催し、その内、12 セッションを EE（発表言語もプレゼン資料も英語）セッションとして開催した。学生優秀発表賞表彰をおこなった。104 件（当日キャンセルを含む）の審査対象から最終的に 11 件を選んだ。審査の過程では、多くの宇宙惑星科学セクション登録会員に審査員として協力していただいた。

・夢ロードマップの改訂作業を、メールベースの意見交換及び 2 回のビデオ会議を通じて行い、最終版を 12 月 19 日（水）に学術会議側へ提出した。

□ 大気水圏科学セクション

・セクションボードメンバー及び代議員を招集しセクションボードミーティングを開催した。また、学生優秀発表の審査、高校生セッションの審査、一般・報道向けのハイライト論文の審査を行った。

・2019 年度連合大会に向けてセッション提案の呼びかけを行い、またプログラム案の作成を行った。

・日本学術会議地球惑星科学委員会からの要請に基づき、夢ロードマップの改訂を行った。

・水文分野 5 学会合同のレター誌「Hydrological Research Letters」の出版に関わる協議会に参加し、費用の一部を負担した（東京、2018 年 12 月 28 日）。

・研究集会「SPARC General Assembly 2018」を協賛し、費用の一部を負担した（京都市、2018 年 9 月 30 日～10 月 5 日）。

・研究集会「2018 年度陸水物理研究会石垣大会」を協賛し、費用の一部を負担した（石垣市、2018 年 11 月 16 日～18 日）。

・今後の宇宙開発体制のあり方に関する「タスクフォース会合・リモートセンシング分科会（TF)」コミュニティの地球科学研究高度化ワーキンググループの活動に参加した。

・セクションを詳しく説明するウェブページを公開した。

□ 地球人間圏科学セクション

・セクション活動の活性化にむけ新規に若手研究者をセクションボードに迎え充実させた。

・2018 年大会においてセクションボードミーティングを開催し学生優秀発表賞の選考に関わる議論を行い、表彰活動を行った。

・2018 年大会開催に向けセッション提案を呼びかけた。

・2019 年大会プログラム委員には七山太氏を選出した。

・地球人間圏科学セクションのボードメンバーのミーティング 2019 年 3 月末に開催し、翌年度の活動方針を話し合う機会を設けた。

・地球人間圏科学セクションに関わる若手研究者の学会活動を支援した。
・日本学術会議地球惑星科学委員会活動との連携(シンポジウム、夢ロードマップ改訂、大型研究計画の検討など)をはかった。
・ジオ・ユニオン活動（IGU 大会、 ICA 大会、INQUA 大会、IAG 大会など）との連携を進めた。

□ 固体地球科学セクション

・ JpGU2018 において、セクションボードメンバーを招集し、セクションボード会合を開催した(2018 年 5 月 23 日)。セクションボード会合では、フォーカスグループ活動報告（地球深部科学 FG の執行部交代と継続承認、ハードロック掘削科学の執行部承認)、フォーカスグループのあり方についての意見交換、夢ロードマップ・タスクフォース(TF)の設置報告、セクションボード執行部体制の承認、セクションボードメンバーの交代、セクションボード予算の承認、セクションからの JpGU 委員の選出を行った。西田賞の審査員の推薦について協力を求めた。また、固体地球科学セクション選出の代議員の交流を改善し、情報交換を活発に行うことが確認された。
・ JpGU2018 において、固体地球科学セクション（領域外・複数領域の担当も含み、全 75 セッション）では、43 件の英語セッションを開催した。
・ JpGU2018 に先立ち、ハイライト論文を選考した。
・ JpGU2018 において、学生発表賞を選考した。
・ 固体地球科学セクション選出のプログラム委員を一名交代し、3 名のプログラム委員をセクションボードメンバーに迎えた。
・ 2018 年 8 月 6-8 日に、連合と共催で「リソスフェア・マントルのダイナミクスに関する第２回アジア・太平洋域ワークショップ」を JAMSTEC 横浜研で開催した。参加者は 50 名（うち海外研究機関からの参加者 22 名)、口頭発表 18 件、ポスター発表 27 件であった。固体地球科学セクションより、海外からの招待講演者 3 名へ旅費支援を行った。
・ 2018 年 11 月 6-7 日に、連合と共催で「SAKIGAKE-JpGU Hard Rock Focus Group Kick-off workshop」を金沢市文化ホールで開催した。参加者 35 名（うち海外研究機関からの参加者 7 名)、口頭発表 12 件、ポスター発表 9 件であった。固体地球科学セクションより、学生 6 名、発表者 1 名へ旅費支援を行った。
・ 新規フォーカスグループを募集し、「表層変動熱年代学」を承認した。また、このフォーカスグループの代表を新たにセクションボードに迎えた。
・ 固体地球科学分野の夢ロードマップ案を取りまとめ、他の分野との調整を図った。

□ 地球生命科学セクション

・連合大会でハイライト論文を選考し、プレスリリース候補の選出を行った。
・連合大会の地球生命科学関連セッションで学生賞の審査を行った。
・優れた地球生命科学関連の論文の PEPS への投稿を呼びかけた。
・連合大会期間中にセクションボードのビジネスミーティングを開いた。
・連合大会の活性化と若手支援を骨子とする 2018 年事業計画の策定を行った。
・セクションボードのミーティングを 2 回行い、地球生命科学の夢ロードマップの改訂

を進めた。その内容について遠藤代表が JpGU2018 のユニオンセッションで講演紹介した。

・連合大会で研究分野を越えて学生・若手研究者におくる地球惑星科学の特別講義シリーズ『スペシャルレクチャー』を行った。

スペシャルレクチャー講師：高野 淑識（JAMSTEC）

演題：「生命が発生する"前夜"とその"夜明け"を『化学』で観る」

・来年度の連合大会に向けて地球生命科学関連セッションの提案を呼びかけた。

・地球生命科学セクションに登録している代議員は、選出区分によらず、全員を自動的にボードメンバーとすることとした。2018 年度のボードメンバーについて以下のような役割分担を配分した。

遠藤一佳（東大）代表，磯崎行雄（東大）副代表・顕彰，小林憲正（横浜国大）副代表・顕彰・PEPS，生形貴男（京大）幹事・総務，高野淑識（JAMSTEC）幹事・総務，池原　実（高知大），稲垣史生（JAMSTEC）プログラム，井上麻夕里（岡山大），井龍康文（東北大）PEPS 代表，上野雄一郎（東工大）プログラム，大河内直彦（JAMSTEC）広報，岡崎裕典（九大），掛川　武（東北大）財務・PEPS，金子雅紀（産総研），川幡穂高（東大）会長，北台紀夫（東工大），北村晃寿（静岡大）災害，小宮　剛（東大），ジェンキンス・ロバート（金沢大）学生，鈴木庸平（東大），高井研（JAMSTEC），高橋嘉夫（東大），對比地孝亘（東大），豊福高志（JAMSTEC），西弘嗣（東北大）理事・戦略・教育検討，藤田和彦（琉球大），山岸明彦（東京薬科大），北里　洋（東京海洋大）アドバイザー

・JpGU フェロー候補および西田賞候補者を積極的にノミネートするために、新しく顕彰委員として、大河内代議員の推薦を行った。

・JpGU 主催の「高校生のための冬休み講座 2018」を東京大学・小柴ホールで行い、「未踏の地へ：地球惑星科学の挑戦」（講師２名、うち１名は宇宙惑星セクション）と題して、地球生命科学セクションに関するトピックのアウトリーチ活動を行った。

講師：高野淑識 主任研究員（JAMSTEC）

演題：「始原的な気体「メタン」と地球生命科学の未来」

・若手研究者に EGU 派遣旅費の公募事業を行った（国際派遣事業＝公募選考）。

（２）顕彰制度関連活動

１）連合大会における「学生優秀発表」の表彰

学生優秀発表賞はシステムの充実を図り、制度の安定的な運営を目的に、審査のための WEB システムの刷新を行った。

２）連合フェローの顕彰

2018 年度フェロー12 名の顕彰を行った。また、2019 年度フェロー候補の募集と審査を行った。

３）地球惑星科学振興西田賞の審査

第３回地球惑星科学振興西田賞候補者の募集と審査を行った。

４）日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）の審査

第４６回日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）受賞者の表彰を 2018 年連合大会において行った。

（３）各種委員会活動

理事会の取り決めにより委員会を組織して、各種事業を進めた。

□ 総務委員会

・事務局員の福利厚生として大会特別手当規則を制定するとともに、就業に関わる規則（規則就業規則、退職金規則、賃金規則等）の制定した。
・総会資料と理事会開催資料を事務局との協働により作成した。
・共催、協賛、後援等の外部折衝と理事会への照会を行った。
・事務局の運営に関して監修し、助言を行った。

□ 財務委員会

・平成 30 年度連合大会を財務面から支援した。
・2018 年 9 月 20 日（木）10:00～12:00 に日本地球惑星科学連合事務局にて第一回財務委員会を開催した。引き続き 2018 年 11 月 15 日（木）16:30～18:00 に同所にて第二回財務委員会を開催した。さらに 2019 年 2 月 25 日（月）16:00～18:00 に同所にて第三回財務委員会を開催した。
・2018 年 11 月 15 日（木）9:30～16:30 に各科学セクション、各委員会からの予算要求書に基づきヒヤリングを行い予算の調整を行った。
・平成 30 年度決算書、平成 31 年度予算書を策定した。

□ 広報普及委員会

・連合 2018 年大会のハイライト講演をセレクトしてプレスリリースを行った。
・連合 2018 年大会の日本語プログラムを編集し JGL 春号として発行した。
・連合 2018 年大会における記者会見用ブースを設置した。
・連合 2018 年大会でパブリックセッション「高校生によるポスター発表」及び「地球・惑星科学トップセミナー」を主催した。
・「地球・惑星科学トップセミナー」の映像を記録して動画配信を行った。
・中高生のための「NASA-JAXA ハイパーウォール講演会」を行った。
・広報普及委員会パブリックセクション小委員会で，2019 年大会で開催するパブリックセクションの採択に向けた検討を行った。
・2018 年 12 月 27 日（木）東京大学本郷キャンパス理学部 1 号館にて「日本地球惑星科学連合高校生のための冬休み講座 2018」を開催した。映像を記録して動画配信を行った。
・ニュースレター誌 JGL を年間 4 号発行し、正会員を中心に高等学校、博物館等に配布のほか、pdf 版を連合 Web で公開した。
・ニュースレター誌 JGL の特集ページとして 2018 年度フェロー受賞者の記念文集を掲載し、

pdf 版を連合 Web で公開した。

・メールニュース定期号を年間 12 件、臨時号を年間 3 件発信した。

・連合ウエブで様々なお知らせやニュース等の情報発信を行った。

・その他、連合の活動及び地球惑星科学分野での最新トピックスや日本学術会議の活動をコミュニティ内外に迅速に伝えるための活動を行った。

□ 環境災害対応委員会

・JpGU 2018 において、ユニオンセッション「連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？」を開催した。

・2018 年 6 月 5 日日本建築学会にて開催の防災学術連携体総会に参加した。

・2018 年 6 月 16 日東京工業大学・イノベーションセンター6 階ラウンジにて委員会を開催した。

・2018 年 7 月 16 日日本建築学会にて開催の防災学術連携体の西日本豪雨災害緊急集会に参加し、高橋幸弘委員が発表を行った。

・2018 年 10 月 9 日広島大学東京オフィスにて委員会を開催した。

・2018 年 10 月 13 日－14 日防災推進国民大会 2018（ぼうさいこくたい 2018）にてポスター発表を行った。

発表者：松本　淳（首都大学東京）

発表タイトル：日本地球惑星科学連合環境災害対応委員会による防災関連の活動紹介

・2018 年 10 月 9 日広島大学東京オフィスにて委員会を開催した。

□ ダイバーシティ推進委員会

・2018 連合大会でパブリックセッション「研究者のためのメンタルケアとコミュニケーション術（Mental care and Communication Strategies for Researchers）」を開催した。

・2018 年連合大会でユニオンセッション「Employment and work-life-balance of female geoscientists in Japan: International and Interdisciplinary comparison（国際的・分野横断的な視点からみた地球科学分野の女性研究者の雇用とワークライフバランス）」を開催した。

・2018 連合大会でキャリアパス支援ブースの運営を行った。新聞社、出版社、科学館関係者などを含む数人がブースの相談員として担当した。

・2018 連合大会で保育室の開室を支援した。

・ダイバーシティ推進委員会の face to face 会議を大会期間中（5 月 21 日）に開催し、委員会事業の報告のほか、ハラスメントアンケートの結果速報を紹介し、意見交換した。

・女子中高生夏の学校（8 月 9 日（木）～11 日（土））に参加し、実験実習、ポスター展示、進路相談などの企画を協賛した。

・キャリア関係シンポジウムとして、日本海洋学会の男女共同参画イベント「海洋研究者の座談会－無意識のバイアスについて考える－」（9 月 26 日（水））を共催した。

・男女共同参画学協会連絡会に出席するとともに若手研究者育成 WG 活動を行った（通年）。10 月 13 日（土）に開催された同連絡会主催のシンポジウムに参加し、ポスター発表による連合の宣伝を行った。

□ 教育検討委員会

学校教育および社会教育に関わる諸活動

・2018 年 5 月 20 日　連合大会パブリックセッション「これからの高校における地球惑星科学教育―「地理総合」と「地学基礎」―」を開催した。

・2018 年 5 月 20 日　CD 版「埼玉から地学　地球惑星科学実習帳」を制作し、連合大会にて頒布した（つくば市で 9 月に開催された地学教育学会でも頒布）。

・2018 年 8 月 25 日・26 日　京都大学防災研究所研究集会「地学教育の展望―来たるべき南海トラフ地震に備えて―」開催に協力した。

・2018 年 6 月より　学術会議 地球惑星科学委員会 地球惑星科学人材育成分科会 地学・地理学初等中等教育検討小委員会の活動に参加した。

・2018 年 9 月 22 日　第 76 回教育課程小委員会を開催（学会ビル会議室）した。

国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援

国際地学/地理オリンピックなどの国際的な活動を通じて、多くの高校生がサイエンスにより深く触れる機会を提供することを目的に、以下の国際科学オリンピック事業に関連する支援と活動を進めた。

国際地学オリンピック活動支援

・2018 年 8 月 8 日から 17 日までタイ・カンチャナブリーにて第 12 回国際地学オリンピック・タイ大会が、38 か国・地域からの合計 139 名の選手が参加して開催された。日本は金メダル 3、銀メダル 1 の成績で、金メダル獲得による国別順位はアメリカ（金メダル 4）に次ぐ 2 位であった。

・2018 年 12 月 16 日に全国の会場で第 11 回日本地学オリンピック予選（兼第 13 回国際地学オリンピック・韓国大会一次選抜）を行った。

・3 月 10 日から 12 日につくば市で開催された第 11 回日本地学オリンピック本選にて、「日本地球惑星科学連合賞」として、本選で最優秀成績を獲得した女性に賞状ならびに記念品の授与を行い、参加高校生のモチベーションの向上を図り、本活動への支援を強化した。

国際地理オリンピック活動支援

・7 月 31 日から 8 月 6 日までカナダ・ケベック州で開催された世界大会に、日本代表選手 4 名を派遣した。大会には 43 か国・地域から合計 167 名の高校生が参加した。本年度の日本選手は，残念ながらメダル獲得には至らなかった。国・地域別の総合順位は 31 位であった。また，ポスター部門においても，全体で 31 位の成績に終わった。

・2018 年 12 月 15 日に全国の会場で第 13 回科学地理オリンピック日本選手権大会及び第 16 回国際地理オリンピック世界大会（香港・中国）の第 1 次選抜試験（マルチメディアテスト）を行った。

・2019 年 2 月 17 日に第 2 次選抜試験（記述式テスト）を、2019 年 3 月 9 日～10 日に

第 3 次選抜試験（フィールドワークテスト）を実施した。

・2019 年 3 月 21 日に開催された日本地理学会総会（専修大学生田キャンパス）において，世界大会派遣選手 4 人の表彰を行った。

教員免許状更新講習の開催

文部科学省より教員免許状更新講習の認定を受け、教員免許更新講習を実施した。

講習概要

| 開催月日 | 開催地 | 講習名 | 受講者数 | 定員 |
|---|---|---|---|---|
| 12月27日 | 東京都文京区 | 数値シミュレーションで学ぶ津波の基礎 | 3名 | 15人 |

アースサイエンスウィーク・ジャパン

AGI（American Geoscience Institute）が、毎年、世界各国で開催している Earth Science Week と連携して、「アースサイエンスウィーク・ジャパン in 静岡」を 2018 年 10 月 13 日～19 日に静岡県で開催した。講演会（13 日と 14 日、ふじのくに自然環境史ミュージアム）、巡検（14 日、伊豆ジオパーク）などを実施した。

□ 情報システム委員会

・予算やＪｐＧＵ事業の将来影響を考慮した結果、会員向け研究情報 SNS・情報提供 Web サイト「MyJpGU」 を廃止するとともに、新たに「ORCID to Society」サービスに加入し、会員の研究・学術関連・委員会・学会活動などの情報の国内外発信および利便性向上へ向けた取り組みを開始した。

・連合大会における国際セッション ″Open Science as a New Paradigm: Research Data Sharing, Infrastructure, Scientific Communications, and Beyond″を企画・共催し、AGU 理事を招へいし、来日中の AGU 上級副会長などとともに米国 AGU における研究情報オープン化やコミュニティの取組み状況などについて講演頂き、情報交換を行った。

・ユニオンセッション″JpGU-AGU Great Debate: Role of Open Data and Open Science in Geoscience″に参加して国際的なオープンデータ、オープンサイエンスの考え方、進め方、学協会の役割などについて議論を行った。セッション後に次回 AGU Fall Meeting での Greate Debate に JpGU の代表を招待したい旨打診があり受諾した。

・AGU Fall Meeting 2018（米国ワシントン DC）に参加し、AGU 地球宇宙科学情報学セクションの執行委員会および JpGU・AGU 執行部合同会合に出席し、情報交換を行った。また AGU ユニオンセッション ″U23A: Great Debate: How to Support and Develop the Modern Digital Research Ecosystem to Maximize Benefits of Science for Society and the Research Community″へ参加し、米国・欧州からの代表と共にパネルディスカッションを行った。

・JpGU-AGU Joint Meeting 2018 に向けて改修されたオンラインシステムを活用して、円滑な大会運営を支援した。また次年度以降に向けてさらなる改良作業を行った。

□ ジャーナル企画経営委員会

・2018 年 4 月 5 日：メール会議にてジャーナル企画経営委員会を開催、科研費不採用を受けて活動内容の見直しと APC 改定について審議した。
・2018 年 4 月 6 日、18 日：会長・副会長中心にジャーナル企画経営委員会を開催し、予算見直計画について検討した。
・2018 年 10 月 25 日：H31 年度科研費申請の計画調書についてメール会議にて意見交換を行った。
・2018 年 11 月 9 日：メール会議にて、出版社（SpringerNature）との契約更新案について審議した。
・2018 年 12 月 1 日：ジャーナル企画経営委員会のタスクフォースとして地震学会論文賞への PEPS 推薦論文選考委員 5 名を任命し、12 月 21 日選考会議を開催した。

□ ジャーナル編集委員会
・2018 年 4 月 23 日：TV 会議にて編集長会議を開催、予算縮小に伴う事業内容の見直しについて検討した。
・2018 年 5 月 23 日：連合大会中、幕張メッセにて編集委員会議を開催（21 名参加、内 5 名海外編集委員)、現状報告、事業縮小について説明し意見交換を行った。Springer による 2017 年レポートの報告と今後の取組について紹介があった。
・2018 年 7 月 20 日：TV 会議にて編集長会議を開催、IF 取得後の PR 方法、Springer との契約更新に伴う論文掲載料（APC)、新規提案 SPEPS への対応、大気水圏分野の編集長後任等を検討した。
・2018 年 10 月 26 日：北大東京オフィスにて編集長会議を開催。新規大気水圏分野編集長の紹介、H31 年度科研費申請の報告、新 APC の周知方法の検討、編集上の問題点について議論した。
・2018 年 12 月 19 日：TV 会議にて編集長会議を開催、編集上の問題点について情報共有・対応方針を検討し、次期編集委員の後任候補者について検討した。

□ 大会運営委員会
・日本地球惑星科学連合 2018 年大会（5 月 20 日（日）～24 日（木）の開催とその準備を行った。
・大会の準備のため 2017 年 12 月 27 日、2018 年 3 月 19 日、及び 2018 年 4 月 30 日の 3 回大会運営委員会を開催した。
・大会運営委員会では、2017 年大会の総括に基づき、大会の変更点を検討し、大会運営委員の役割分担を決定した。

□ グローバル戦略委員会
・Wallis(委員長), 高橋(副委員長/会計担当)、安成(幹事/副会計担当)という新しい体制で委員会運営することにした。
・連合大会にて AGU とのジョイントセッションの活性化を推進した。
・同大会で International Mixer Luncheon を開催した。連携海外組織とミーティングを開催

し連携力強化を図った。

・EGU・AOGS・AGU 等連携海外組織の大会にブース出展をし、連合、ジャーナル、加盟学協会の活動紹介を行った。

・2018 年 10 月 22 日、11 月 16 日、2019 年 3 月中（予定）グローバル戦略委員会を開催した。

・加盟学協会に協力を仰ぎ、アジア太平洋作業部会により「アジアにおける学協会との協力関係に関するアンケート」を行った。

□ フェロー審査委員会

・2018 年 12 月 31 日（月）を締切として、2019 年度日本地球惑星科学連合フェローの候補者募集を行った。

・2019 年 2 月 14 日（木）学会センタービルにて委員会を開催し、フェロー候補者の審査を行った。

□ 地球惑星科学振興西田賞審査委員会

・2018 年 12 月 15 日（土）を締切として、第３回地球惑星科学振興西田賞受賞候補者の募集を行った。

・2018 年 12 月 28 日（金）および 2019 年 2 月 2 日(土)に学会センタービルにて委員会を開催し、第３回地球惑星科学振興西田賞の審査を行った。

□ 日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）審査委員会

・2018 年連合大会において、第４６回日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）受賞者の表彰を行った。

## Ⅱ．処務の状況

### １．役員等に関する事項

（１）公益社団法人第８期会長、理事、監事

| 役　　職 | 氏　　名 | 所　　属 |
|---|---|---|
| 会　　長 | 川幡　穂高 | 東京大学 |
| 副　会　長 | 田近　英一 | 東京大学 |
| 〃 | 中村　正人 | 宇宙航空開発機構 |
| 〃 | 古村　孝志 | 東京大学 |
| 〃 | ウォリス サイモン | 東京大学 |
| 理　　事 | 阿部 なつ江 | 海洋研究開発機構 |
| 〃 | 市川 洋 | 無し |
| 〃 | 井出 哲 | 東京大学 |
| 〃 | 小口 千明 | 埼玉大学 |
| 〃 | 河宮 未知生 | 海洋研究開発機構 |
| 〃 | 木村 学 | 東京海洋大学 |
| 〃 | 倉本 圭 | 北海道大学 |
| 〃 | 中村 昭子 | 神戸大学 |
| 〃 | 成瀬 元 | 京都大学 |
| 〃 | 西 弘嗣 | 東北大学 |
| 〃 | 浜野 洋三 | 無し |
| 〃 | 日比谷 紀之 | 東京大学 |
| 〃 | 松本 淳 | 首都大学東京 |
| 〃 | 道林 克禎 | 静岡大学 |
| 〃 | 村山 泰啓 | 情報通信研究機構 |
| 監　　事 | 加藤 照之 | 神奈川県温泉地学研究所 |
| 〃 | 鈴木　善和 | プラタナス法律事務所 |
| 〃 | 氷見山　幸夫 | 北海道教育大学名誉教授 |

（２）公益社団法人第７期（平成 29 年度）社員

定款第７条（法人の構成員）第２項により、正会員の中から選出された代議員をもって、公益社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員とする。

■ 代議員：　150 名

定款第 11 条(代議員の定数、選出方法、任期及び欠員措置)第 2 項により、代議員の定数は、80 名以上 200 名以内で社員総会において別に定める数とする。

宇宙惑星科学（23 名）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中村 正人 | （宇宙航空研究開発機構） | 田近 英一 | （東京大学） |
| 佐々木 晶 | （大阪大学） | 笠羽 康正 | （東北大学） |
| 関 華奈子 | （東京大学） | 中本 泰史 | （東京工業大学） |
| 三好 由純 | （名古屋大学） | 能勢 正仁 | （京都大学） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 高橋 幸弘 | （北海道大学） | 佐々木 貴教 | （京都大学） |
| 中村 昭子 | （神戸大学） | 清水 敏文 | （宇宙航空研究開発機構） |
| 倉本 圭 | （北海道大学） | 吉川 顕正 | （九州大学） |
| 渡邊 誠一郎 | （名古屋大学） | 保井 みなみ | （神戸大学） |
| 加藤 雄人 | （東北大学） | 百瀬 宗武 | （茨城大学） |
| 小久保 英一郎 | （国立天文台） | はしもと じょーじ | （岡山大学） |
| 長妻 努 | （情報通信研究機構） | 横山 央明 | （東京大学） |
| 中村 卓司 | （国立極地研究所） | | |

大気水圏科学（30 名）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中村 尚 | （東京大学） | 蒲生 俊敬 | （東京大学） |
| 河宮 未知生 | （海洋研究開発機構） | 渡辺 真吾 | （海洋研究開発機構） |
| 佐藤 正樹 | （東京大学） | 津田 敏隆 | （情報・システム研究機構） |
| 佐藤 薫 | （東京大学） | 近藤 豊 | （国立極地研究所） |
| 安成 哲平 | （北海道大学） | 時長 宏樹 | （京都大学） |
| 日比谷 紀之 | （東京大学） | 三浦 裕亮 | （東京大学） |
| 沖 理子 | （宇宙航空研究開発機構） | 大手 信人 | （京都大学） |
| 原田 尚美 | （海洋研究開発機構） | 山内 恭 | （国立極地研究所） |
| 三好 建正 | （理化学研究所） | 谷口 真人 | （総合地球環境学研究所） |
| 早坂 忠裕 | （東北大学） | 吉田 尚弘 | （東京工業大学） |
| 樋口 篤志 | （千葉大学） | 杉山 慎 | （北海道大学） |
| 伊藤 進一 | （東京大学） | 竹内 望 | （千葉大学） |
| 東塚 知己 | （東京大学） | 村山 泰啓 | （情報通信研究機構） |
| 檜山 哲哉 | （名古屋大学） | 吉川 裕 | （京都大学） |
| 川合 義美 | （海洋研究開発機構） | 川口 慎介 | （海洋研究開発機構） |

地球人間圏科学（18 名）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 小口 高 | （東京大学） | 佐竹 健治 | （東京大学） |
| 須貝 俊彦 | （東京大学） | 井田 仁康 | （筑波大学） |
| 春山 成子 | （三重大学） | 安成 哲三 | （総合地球環境学研究所） |
| 松本 淳 | （首都大学東京） | 氷見山 幸夫 | （北海道教育大学名誉教授） |
| 島津 弘 | （立正大学） | 七山 太 | （産業技術総合研究所） |
| 近藤 昭彦 | （千葉大学） | 秋本 弘章 | （獨協大学） |
| 小口 千明 | （埼玉大学） | 北村 有迅 | （鹿児島大学） |
| 奥村 晃史 | （広島大学） | 徳永 朋祥 | （東京大学） |
| 青木 賢人 | （金沢大学） | 熊野 善介 | （静岡大学） |

固体地球科学（50 名）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 木村 学 | （東京海洋大学） | 中川 光弘 | （北海道大学） |
| 古村 孝志 | （東京大学） | 松澤 孝紀 | （防災科学技術研究所） |
| 道林 克禎 | （静岡大学） | 森下 知晃 | （金沢大学） |
| 久家 慶子 | （京都大学） | 田所 敬一 | （名古屋大学） |
| 井出 哲 | （東京大学） | Madhusoodhan Satish-Kumar | （新潟大学） |
| 岩森 光 | （海洋研究開発機構） | 鍵 裕之 | （東京大学） |
| 大谷 栄治 | （東北大学） | 成瀬 元 | （京都大学） |
| 武井 康子 | （東京大学） | 福島 洋 | （東北大学） |
| 田中 聡 | （海洋研究開発機構） | 藤田 英輔 | （防災科学技術研究所） |
| 入舩 徹男 | （愛媛大学） | 島 伸和 | （神戸大学） |
| 川勝 均 | （東京大学） | 針金 由美子 | （産業技術総合研究所） |
| サイモン ウォリス | （東京大学） | 西山 忠男 | （熊本大学） |
| 片山 郁夫 | （広島大学） | 福山 英一 | （防災科学技術研究所） |
| 中村 美千彦 | （東北大学） | 岩田 知孝 | （京都大学） |
| 深畑 幸俊 | （京都大学） | 橋本 武志 | （北海道大学） |
| 阿部 なつ江 | （海洋研究開発機構） | 篠原 宏志 | （産業技術総合研究所） |
| 趙 大鵬 | （東北大学） | 歌田 久司 | （東京大学） |
| 浜野 洋三 | （海洋研究開発機構） | 坂口 有人 | （山口大学） |
| 前野 深 | （東京大学） | 松原 誠 | （防災科学技術研究所） |
| 西村 太志 | （東北大学） | 辻森 樹 | （東北大学） |
| 小木曽 哲 | （京都大学） | 馬場 俊孝 | （徳島大学） |
| 前田 拓人 | （東京大学） | 鈴木 勝彦 | （海洋研究開発機構） |
| 下司 信夫 | （産業技術総合研究所） | 中原 恒 | （東北大学） |
| 木村 純一 | （海洋研究開発機構） | 辻 健 | （九州大学） |
| 大園 真子 | （北海道大学） | 飯沼 卓史 | （海洋研究開発機構） |

地球生命科学（13名）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 川幡 穂高 | （東京大学） | 遠藤 一佳 | （東京大学） |
| 高野 淑識 | （海洋研究開発機構） | 豊福 高志 | （海洋研究開発機構） |
| 西 弘嗣 | （東北大学） | 金子 雅紀 | （産業技術総合研究所） |
| 岡崎 裕典 | （九州大学） | 掛川 武 | （東北大学） |
| 井上 麻夕里 | （岡山大学） | 井龍 康文 | （東北大学） |
| ロバート ジェンキンズ | （金沢大学） | 池原 実 | （高知大学） |
| 大河内 直彦 | （海洋研究開発機構） | | |

地球惑星科学総合(16名)

| | | | |
|---|---|---|---|
| 宮嶋 敏 | （埼玉県立熊谷高等学校） | 中川 和之 | （時事通信社解説委員） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 佐野 有司 | （東京大学） | 田口 康博 | （千葉県立銚子高等学校） |
| 矢島 道子 | （日本大学） | 伊東 明彦 | （宇都宮大学） |
| 市川 洋 | （元 海洋開発研究機構） | 熊谷 英憲 | （海洋研究開発機構） |
| 上村 剛史 | （海城中学高等学校） | 瀧上 豊 | （関東学園大学） |
| 横山 広美 | （東京大学） | 小俣 珠乃 | （海洋研究開発機構） |
| 稲垣 史生 | （海洋研究開発機構） | 中井 咲織 | （東京大学） |
| 畠山 正恒 | （聖光学院中学高等学校） | 小田 啓邦 | （産業技術総合研究所） |

■ 団体会員： 50 団体

| | | |
|---|---|---|
| 日本宇宙生物科学会 | 生命の起原および進化学会 | 日本地熱学会 |
| 日本応用地質学会 | 石油技術協会 | 地理科学学会 |
| 日本温泉科学会 | 日本雪氷学会 | 日本地理学会 |
| 日本海洋学会 | 日本測地学会 | 日本地理教育学会 |
| 日本火山学会 | 日本大気化学会 | 地理教育研究会 |
| 形の科学会 | 日本大気電気学会 | 地理情報システム学会 |
| 日本活断層学会 | 日本堆積学会 | 東京地学協会 |
| 日本気象学会 | 日本第四紀学会 | 東北地理学会 |
| 日本鉱物科学会 | 日本地学教育学会 | 土壌物理学会 |
| 日本古生物学会 | 地学団体研究会 | 日本粘土学会 |
| 日本沙漠学会 | 日本地下水学会 | 日本農業気象学会 |
| 資源地質学会 | 日本地球化学会 | 物理探査学会 |
| 日本地震学会 | 地球環境史学会 | 陸水物理研究会 |
| 日本情報地質学会 | 地球電磁気・地球惑星圏学会 | 日本リモートセンシング学会 |
| 日本水文科学会 | 日本地形学連合 | 日本惑星科学会 |
| 水文・水資源学会 | 日本地質学会 | 日本自然災害学会 |
| 生態工学会 | 日本地図学会 | |

（3）セクションボード

□ 宇宙惑星科学セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 高橋 幸弘 | （北海道大学） | 寺田直樹 | （東北大学） |
| 倉本 圭 | （北海道大学） | 長澤真樹子 | （久留米大学） |
| 関 華奈子 | （東京大学） | 長妻 努 | （情報通信研究機構） |
| 能勢 正仁 | （京都大学） | 中村 昭子 | （神戸大学） |
| 保井 みなみ | （神戸大学） | 中村 卓司 | （国立極地研究所） |
| 相川 祐理 | （東京大学） | 中村 正人 | （宇宙航空研究開発機構） |
| 牛尾 知雄 | （首都大学東京） | 中本 泰史 | （東京工業大学） |
| 大村 善治 | （京都大学） | 並木 則行 | （国立天文台） |
| 笠羽 康正 | （東北大学） | ハシモト ジョージ | （岡山大学） |
| 加藤 雄人 | （東北大学） | 藤井 良一 | （名古屋大学） |
| 草野 完也 | （名古屋大学） | 藤本晶子 | （九州工業大学） |
| 小久保 英一郎 | （国立天文台） | 三好 由純 | （名古屋大学） |
| 佐々木 晶 | （大阪大学） | 百瀬 宗武 | （茨城大学） |

佐々木 貴教　（ 京都大学 ）　　藪田ひかる　（ 広島大学 ）

□ 大気水圏科学セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 蒲生 俊敬 | （ 東京大学 ） | 津田 敏隆 | （ 京都大学 ） |
| 杉田 倫明 | （ 筑波大学 ） | 坪木 和久 | （ 名古屋大学 ） |
| 佐藤 薫 | （ 東京大学 ） | 東塚 知己 | （ 東京大学 ） |
| 川合 義美 | （海洋研究開発機構） | 中島 映至 | （宇宙航空研究開発機構） |
| 伊藤 進一 | （ 東京大学 ） | 中村 尚 | （ 東京大学 ） |
| 沖 理子 | （宇宙航空研究開発機構） | 西井 和晃 | （ 三重大学 ） |
| 神沢 博 | （ 名古屋大学 ） | 花輪 公雄 | （ 東北大学 ） |
| 河宮 未知生 | （海洋研究開発機構） | 早坂 忠裕 | （ 東北大学 ） |
| 北 和之 | （ 茨城大学 ） | 原田 尚美 | （海洋研究開発機構） |
| 鬼頭 昭雄 | （ 筑波大学 ） | 樋口 篤志 | （ 千葉大学 ） |
| 近藤 豊 | （国立極地研究所） | 日比谷 紀之 | （ 東京大学 ） |
| 佐藤 正樹 | （ 東京大学 ） | 松本 淳 | （首都大学東京） |
| 鈴木 啓助 | （ 信州大学 ） | 村山 泰啓 | （情報通信研究機構） |
| 多田 隆治 | （ 東京大学 ） | 安成 哲平 | （ 北海道大学 ） |
| 谷口 真人 | （総合地球環境学研究所） | 吉田 尚弘 | （ 東京工業大学 ） |
| 知北 和久 | （ 北海道大学 ） | | |

□ 地球人間圏科学セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 奥村 晃史 | （ 広島大学 ） | 瀧上 豊 | （ 関東学園大学 ） |
| 佐竹 健治 | （ 東京大学 ） | 千木良 雅弘 | （ 京都大学 ） |
| 近藤 昭彦 | （ 千葉大学 ） | 中村 俊夫 | （ 名古屋大学 ） |
| 須貝 俊彦 | （ 東京大学 ） | 奈佐原 顕郎 | （ 筑波大学 ） |
| 青木 賢人 | （ 金沢大学 ） | 七山 太 | （産業技術総合研究所） |
| 秋本 弘章 | （ 獨協大学 ） | 西村 拓 | （ 東京大学 ） |
| 石井 励一郎 | （総合地球環境学研究所） | 氷見山 幸夫 | （北海道教育大学名誉教授） |
| 井田 仁康 | （ 筑波大学 ） | 藤本 潔 | （ 南山大学 ） |
| 碓井 照子 | （ 奈良大学 ） | 藤原 広行 | （防災科学技術研究所） |
| 王 勤学 | （国立環境研究所） | 古谷 勝則 | （ 千葉大学 ） |
| 小口 高 | （ 東京大学 ） | 堀 和明 | （ 名古屋大学 ） |
| 小口 千明 | （ 埼玉大学 ） | 松本 淳 | （ 首都大学東京 ） |
| 木村 圭司 | （ 奈良大学 ） | 松山 洋 | （ 首都大学東京 ） |
| 後藤 和久 | （ 東北大学 ） | 安成 哲三 | （総合地球環境学研究所） |
| 西城 潔 | （ 宮城教育大学 ） | 山田 育穂 | （ 中央大学 ） |
| 島津 弘 | （ 立正大学 ） | 山野 博哉 | （ 国立環境研究所 ） |
| 白井 正明 | （ 首都大学東京 ） | 横山 祐典 | （ 東京大学 ） |
| 杉戸 信彦 | （ 法政大学 ） | 吉田 英嗣 | （ 明治大学 ） |
| 鈴木 毅彦 | （ 首都大学東京 ） | 渡辺 悌二 | （ 北海道大学 ） |
| 鈴木 康弘 | （ 名古屋大学 ） | | |

□ 固体地球科学セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 大谷 栄治 | （ 東北大学 ） | サティッシュ クマール マドスーダン(新潟大学) | |
| 田中 聡 | （海洋研究開発機構） | 佐野 有司 | （ 東京大学 ） |
| 道林 克禎 | （ 名古屋大学 ） | 島 伸和 | （ 神戸大学 ） |
| 生田 領野 | （ 静岡大学 ） | 鈴木 勝彦 | （ 海洋研究開発機構 ） |
| 入舩 徹男 | （ 愛媛大学 ） | 田上 高広 | （ 京都大学 ） |
| 岩森 光 | （ 海洋研究開発機構 ） | 田所 敬一 | （ 名古屋大学 ） |
| ウォリス サイモン | （ 東京大学 ） | 中川 光弘 | （ 北海道大学 ） |

歌田 久司（東京大学）
大久保 修平（東京大学）
奥村 聡（東北大学）
鍵 裕之（東京大学）
片山 郁夫（広島大学）
金川 久一（千葉大学）
唐戸 俊一郎（イェール大学）
川勝 均（東京大学）
河上 哲生（京都大学）
川本 竜彦（静岡大学）
木村 純一（海洋研究開発機構）
中田 節也（防災科学技術研究所）
中村 美千彦（東北大学）
成瀬 元（京都大学）
西山 忠男（熊本大学）
福田 洋一（京都大学）
古村 孝志（東京大学）
日置 幸介（北海道大学）
前野 深（東京大学）
森下 知晃（金沢大学）
吉田 茂生（九州大学）

□ 地球生命科学セクション

遠藤 一佳（東京大学）
磯崎 行雄（東京大学）
小林 憲正（横浜国立大学）
生形 貴男（京都大学）
高野 淑識（海洋研究開発機構）
池原 実（高知大学）
稲垣 史生（海洋研究開発機構）
井上 麻夕里（岡山大学）
井龍 康文（東北大学）
上野 雄一郎（東京工業大学）
大河内 直彦（海洋研究開発機構）
岡崎 裕典（九州大学）
小俣 珠乃（海洋研究開発機構）
掛川 武（東北大学）
金子 雅紀（産業技術総合研究所）
川口 慎介（海洋研究開発機構）
川幡 穂高（東京大学）
北台 紀夫（東京工業大学）
北村 晃寿（静岡大学）
癸生川陽子（横浜国立大学）
小宮 剛（東京大学）
ロバート ジェンキンズ（金沢大学）
鈴木 庸平（東京大学）
高井 研（海洋研究開発機構）
高橋 嘉夫（東京大学）
對比地 孝亘（東京大学）
豊福 高志（海洋研究開発機構）
中井 咲織（立命館宇治中学校・高等学校 東京大学）
西 弘嗣（東北大学）
藤田 和彦（琉球大学）
守屋和佳（早稲田大学）
矢島 道子（日本大学）
山岸 明彦（東京薬科大学）
北里 洋（東京海洋大学）

（4）委員会等

□ 総務委員会

西 弘嗣（東北大学）
日比谷 紀之（東京大学）
成瀬 元（京都大学）
古村 孝志（東京大学）

□ 財務委員会

中村 正人（宇宙航空研究開発機構）
井出 哲（東京大学）
掛川 武（東北大学）
河宮 未知生（海洋研究開発機構）
山田 育穂（中央大学）

□ 広報普及委員会

田近 英一（東京大学）
道林 克禎（名古屋大学）
原 辰彦（建築研究所）
阿部 彩子（東京大学）
飯田 佑輔（関西学院大学）
植田 宏昭（筑波大学）
生形 貴男（京都大学）
関根 康人（東京大学）
高橋 幸弘（北海道大学）
瀧上 豊（関東学園大学）
橘 省吾（東京大学）
谷 篤史（神戸大学）
東宮 昭彦（産業技術総合研究所）
成瀬 元（京都大学）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 大河内 直彦 | （海洋研究開発機構） | 能勢 正仁 | （京都大学） |
| 岡 顕 | （東京大学） | 宮本 英昭 | （東京大学） |
| 奥村 晃史 | （広島大学） | 村上 豪 | (宇宙航空研究開発機構) |
| 笠井 康子 | （通信総合研究所） | 山田 耕 | （早稲田大学） |
| 久利 美和 | （東北大学） | 横山 広美 | （東京大学） |
| 黒田 潤一郎 | （東京大学） | 吉澤 和範 | （北海道大学） |
| 後藤 和久 | （東北大学） | 吉本 和生 | （横浜市立大学） |
| 紺屋 恵子 | （海洋研究開発機構） | 和田 浩二 | （千葉工業大学） |
| 佐藤 活志 | （京都大学） | | |

□ 環境災害対応委員会

| | | | |
|---|---|---|---|
| 松本 淳 | （首都大学東京） | 柳澤 教雄 | (産業技術総合研究所) |
| 川畑 大作 | (産業技術総合研究所) | 作野 裕司 | （広島大学） |
| 松島 政貴 | （東京工業大学） | 佐藤 浩 | （日本大学） |
| 青木 久 | （東京学芸大学） | 小司 禎教 | (気象庁 気象研究所) |
| 秋吉 英治 | （国立環境研究所） | 鈴木 正哉 | (産業技術総合研究所) |
| 浅野 敏久 | （広島大学） | 高木 朗充 | (気象庁気象研究所) |
| 井出 哲 | （東京大学） | 高橋 幸弘 | （北海道大学） |
| 井口 隆 | (防災科学技術研究所) | 竹村 貴人 | （日本大学） |
| 宇根 寛 | （国土地理院） | 田中 茂信 | (京都大学防災研究所) |
| 卜部 厚志 | （新潟大学） | 千葉 達朗 | （（株）アジア航測） |
| 大月 義徳 | （東北大学） | 林 武司 | （秋田大学） |
| 小口 千明 | （埼玉大学） | 福士 圭介 | （金沢大学） |
| 奥村 晃史 | （広島大学） | 松四 雄騎 | (京都大学防災研究所) |
| 小埜 恒夫 | (国立研究開発法人 水産研究・教育機構) | 松島 信一 | （京都大学） |
| 河島 克久 | （新潟大学） | 松本 弾 | (産業技術総合研究所) |
| 北 和之 | （茨城大学） | 宮地 良典 | (産業技術総合研究所) |
| 北村 晃寿 | （静岡大学） | 村山 良之 | （山形大学） |
| 葛葉 泰久 | （三重大学） | 柳澤 教雄 | (産業技術総合研究所) |
| 小荒井 衛 | （茨城大学） | 山本 裕二 | （高知大学） |
| 齋藤仁 | （関東学院大学） | 吉見 雅行 | (産業技術総合研究所) |

□ ダイバーシティ推進委員会

| | | | |
|---|---|---|---|
| 小口 千明 | （埼玉大学） | 戸崎 裕貴 | (産業技術総合研究所) |
| 阿部 なつ江 | (海洋研究開発機構) | 南雲 直子 | （土木研究所） |
| 坂野井 和代 | （駒澤大学） | 浜田 盛久 | (海洋研究開発機構) |
| 安成 哲平 | （北海道大学） | 濱村 奈津子 | （九州大学） |
| 天野 敦子 | (産業技術総合研究所) | 原田 尚美 | (海洋研究開発機構) |
| 新井 真由美 | (日本科学未来館) | 藤光 康宏 | （九州大学） |
| 大垣内 るみ | (海洋研究開発機構) | 古市 剛久 | （北海道大学） |
| 小川 佳子 | （会津大学） | 堀 利栄 | （愛媛大学） |
| 小杉 緑子 | (京都大学大学院) | 前野 深 | （東京大学） |
| 紺屋 恵子 | (海洋研究開発機構) | 松山 洋 | （首都大学東京） |
| 陣 英克 | (電磁波計測研究所) | 宮下 由香里 | (産業技術総合研究所) |
| 末吉 哲雄 | (国立極地研究所) | 守屋 和佳 | （早稲田大学） |
| 宋 苑瑞 | (法政大学経済学部) | 山下 勝行 | （岡山大学） |
| 高橋 幸弘 | （北海道大学） | 吉川 知里 | (海洋研究開発機構) |
| 田中 佐千子 | (防災科学技術研究所) | 若狭 幸 | （秋田大学） |
| 土屋 範芳 | （東北大学） | 渡邊 誠一郎 | （名古屋大学） |
| 津野 宏 | （横浜国立大学） | | |

□ 教育検討委員会

| | | | |
|---|---|---|---|
| 市川 洋 | (元海洋研究開発機構) | 中井 仁 | (小淵沢総合研究施設) |
| 宮嶋 敏 | (埼玉県立熊谷高校) | 西 弘嗣 | (東北大学) |
| 木村 学 | (東京海洋大学) | 西村 光史 | (東洋大学) |
| 阿部 なつ江 | (海洋研究開発機構) | 西山 忠男 | (熊本大学) |
| 阿部 國廣 | (島根半島・宍道湖鳴海(国引き)ジオパーク推進協議会) | 縫村 崇行 | (千葉科学大学) |
| 飯田 和明 | (埼玉県立浦和東高等学校) | 根本 泰雄 | (桜美林大学自然科学系) |
| 石内 鉄平 | (宮城大学) | 畠山 正恒 | (聖光学院中学高等学校) |
| 市川 温 | (京都大学) | 林信太郎 | (秋田大学) |
| 小田 隆史 | (宮城教育大学) | 藤原 靖 | (神奈川県立向の岡工業高校) |
| 島津 弘 | (立正大学) | 南島 正重 | (東京都立両国高等学校) |
| 白井 正明 | (首都大学東京) | 山田 伸之 | (高知大学) |
| 相馬 宣和 | (産業技術総合研究所) | 三田 肇 | (福岡工業大学) |
| 瀧上 豊 | (関東学園大学) | 小西 啓之 | (大阪教育大学) |
| 田口 康博 | (千葉県立銚子高校) | 林 慶一 | (甲南大学理工学部) |
| 津野 宏 | (横浜国立大学) | | |

□ 情報システム委員会

| | | | |
|---|---|---|---|
| 村山 泰啓 | (情報通信研究機構) | 坂野井 和代 | (駒澤大学) |
| 近藤 康久 | (総合地球環境学研究所) | 能勢 正仁 | (京都大学) |
| 小口 高 | (東京大学) | 早川 裕弌 | (東京大学) |
| 河宮 未知生 | (海洋研究開発機構) | 古村 孝志 | (東京大学) |
| 小山 幸伸 | (大分工業高等専門学校) | 山本 佳世子 | (電気通信大学) |

□ ジャーナル企画経営委員会

| | | | |
|---|---|---|---|
| 川幡 穂高 | (東京大学) | 佐藤 正樹 | (東京大学) |
| 津田 敏隆 | (京都大学) | 多田 隆治 | (東京大学) |
| 木村 学 | (東京海洋大学) | 松本 淳 | (首都大学東京) |
| 中村 正人 | (宇宙航空研究開発機構) | 倉本 圭 | (北海道大学) |
| 田近 英一 | (東京大学) | 小田 啓邦 | (産業技術総合研究所) |
| 井龍 康文 | (東北大学) | 西 弘嗣 | (東北大学) |
| 吉岡 祥一 | (神戸大学) | 仲江川 敏之 | (気象研究所) |

□ ジャーナル編集委員会

| | | | |
|---|---|---|---|
| 井龍 康文 | (東北大学) | 渋谷 和雄 | (国立極地研究所) |
| 川幡 穂高 | (東京大学) | 清水 久芳 | (東京大学) |
| 池原 研 | (産業技術総合研究所) | 高野 淑識 | (海洋研究開発機構) |
| 井上 源喜 | (大妻女子大学) | 竹内 真司 | (日本大学) |
| 遠藤 一佳 | (東京大学) | 多田 隆治 | (東京大学) |
| 大竹 真紀子 | (宇宙航空研究開発機構) | 千木良 雅弘 | (京都大学) |
| 大谷 栄治 | (東北大学) | 中田 節也 | (東京大学) |
| 大手信人 | (京都大学) | 長妻 努 | (情報通信研究機構) |
| 岡 顕 | (東京大学) | 早川 裕弌 | (東京大学) |
| 岡本 創 | (九州大学) | 平島 崇男 | (京都大学) |
| 掛川 武 | (東北大学) | 前田 拓人 | (弘前大学) |
| 加藤 照之 | (東京大学) | 松本 淳 | (首都大学東京) |
| 金谷 有剛 | (海洋研究開発機構) | 三浦 裕亮 | (東京大学) |
| 川勝 均 | (東京大学) | 三ケ田 均 | (京都大学) |
| 河宮 未知生 | (海洋研究開発機構) | 宮内 崇裕 | (千葉大学) |
| 菊地 俊夫 | (首都大学東京) | 村山 祐司 | (筑波大学) |
| 倉本 圭 | (北海道大学) | 八木 勇治 | (筑波大学) |
| 兒玉 裕二 | (国立極地研究所) | 山本 衛 | (京都大学) |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 小林 憲正 | （横浜国立大学） | 吉岡 祥一 | （神戸大学） |
| 齋藤 文紀 | （島根大学） | 芳村 圭 | （東京大学） |
| サイモン・ウォリス | （東京大学） | 渡辺 寧 | （秋田大学） |

□ 大会運営委員会

| | | | |
|---|---|---|---|
| 浜野 洋三 | （海洋研究開発機構） | 中川 貴司 | （海洋研究開発機構） |
| 興野 純 | （筑波大学） | 中村 正人 | （宇宙航空研究開発機構） |
| 赤坂 郁美 | （専修大学） | 中村 昭子 | （神戸大学） |
| 飯田 佑輔 | （関西学院大学） | 西 弘嗣 | （東北大学） |
| 北 和之 | （茨城大学） | 縫村 崇行 | （千葉科学大学） |
| 小谷 亜由美 | （名古屋大学） | 能勢 正仁 | （京都大学） |
| 財城 真寿美 | （成蹊大学） | 道林 克禎 | （静岡大学） |
| 高橋 幸弘 | （北海道大学） | 山田 育穂 | （中央大学） |
| 田近 英一 | （東京大学） | 和田 浩二 | （千葉工業大学） |

□ グローバル戦略委員会

| | | | |
|---|---|---|---|
| ウォリス サイモン | （東京大学） | 橘 省吾 | （東京大学） |
| 高橋 幸弘 | （北海道大学） | 津川 卓也 | （情報通信研究機構） |
| 遠藤 一佳 | （東京大学） | 中川 貴司 | （海洋研究開発機構） |
| 大谷 栄治 | （東北大学） | 中村 尚 | （東京大学） |
| 奥村 晃史 | （広島大学） | 西 弘嗣 | （東北大学） |
| 蒲生 俊敬 | （元東京大学） | 春山 成子 | （三重大学） |
| 木下 正高 | （東京大学） | 日比谷 紀之 | （東京大学） |
| 木村 学 | （東京海洋大学） | 藤本 正樹 | （宇宙航空研究開発機構） |
| 久保田 尚之 | （北海道大学） | 松本 淳 | （首都大学東京） |
| 齋藤 文紀 | （島根大学） | 三宅 弘恵 | （東京大学） |
| 末広 潔 | （海洋研究開発機構） | 村山 泰啓 | （情報通信研究機構） |
| 関 華奈子 | （東京大学） | 安成 哲平 | （北海道大学） |
| 平 貴昭 | （カリフォルニア大学） | 山田 育穂 | （中央大学） |
| 田島 文子 | （カリフォルニア大学） | | |

□ 顕彰委員会

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中村 昭子 | （神戸大学） | 川勝 均 | （東京大学地震研究所） |
| 成瀬 元 | （京都大学） | 小林 憲正 | （横浜国立大学） |
| 飯田 真一 | （森林総合研究所） | 近藤 昭彦 | （千葉大学） |
| 磯崎 行雄 | （東京大学） | 佐々木 晶 | （大阪大学） |
| 伊藤 進一 | （東京大学大） | 鈴木 毅彦 | （首都大学東京） |
| ウォリス サイモン | （東京大学） | 長妻 努 | （情報通信研究機構） |

□ フェロー審査委員会

非公表

＊審査委員会規則第６条により、委員名は当該年度の全委員が改選された時点で公表するものとする。

□ 西田賞審査委員会

非公表

＊審査委員会規則第６条により、委員名は受賞者が決定した時点で公表するものとする。

□ 三宅賞審査委員会

非公表

## ２．役員会等に関する事項

（１）平成 30 年度定期社員総会

平成 30 年 5 月 22 日（火）15：30～16：30、千葉幕張メッセ国際会議場　コンベンションホール B において開催。次の議案が付議され、原案通り承認された。

| 開催月日 | 議　　事　　事　　項 | |
|---|---|---|
| 平成30年5月22日 | 第1号議案　平成29年度（公益社団法人第7期）決算承認の件<br>第2号議案　役員（理事、監事）選任の件<br>第3号議案　日本地球惑星科学連合定款第16条４項改訂の件 | 承認<br>承認<br>承認 |

（２）理事会

今期中に 6 回開催した。主要決議事項は以下の通りである。

| 開催月日 | 議　　事　　事　　項 | |
|---|---|---|
| 平成 30 年<br>第 1 回 5 月 2 日 | 第1号議案　新入会員承認の件<br>第2号議案　委員会委員承認の件<br>第3号議案　総会議事および資料の承認<br>第4号議案　平成30年度補正予算の件<br>第5号議案　事務局員（非常勤）就業規則制定の件<br>第6号議案　事務局員（非常勤）就業規則制定の件<br>第7号議案　ジャーナル事業事務局員（常勤）就業規則制定の件<br>第8号議案　ジャーナル事業事務局員（非常勤）就業規則制定の件<br>第9号議案　退職金規則制定の件<br>第10号議案　慰労金規則制定の件<br>第11号議案　賃金規則制定の件<br>第12号議案　フレックスタイム労使協定書制定の件<br>第13号議案　時給規則改正の件<br>第14号議案　総務委員会規則改正の件<br>第15号議案　「今後の地球観測グランドデザイン」へのクレジット許可の件 | 承認<br>承認<br>承認<br>承認<br>承認<br>承認<br>承認<br>承認<br>承認<br>承認<br>承認<br>承認<br>承認<br>承認<br>承認<br>承認 |
| 第 2 回 5 月 22 日 | 第1号議案　代表理事（会長）および業務執行理事選任の件 | 承認 |
| 第 3 回 7 月 31 日 | 第1号議案　新入会員承認の件<br>第2号議案　新入会団体会員承認の件<br>第3号議案　委員会委員承認の件<br>第4号議案　SOLASへの大気水圏科学セクション協賛承認の件<br>第5号議案　就業規則改定の件<br>第6号議案　雇用人事承認の件<br>第7号議案　地球惑星科学振興西田賞準備資金取扱規則の改定の件<br>第8号議案　会員管理等システム移行ならびにセキュリティ向上の件<br>第9号議案　プライバシーポリシー改定の件<br>第10号議案　その他(アースサイエンスウィークジャパン共催の件) | 承認<br>承認<br>承認<br>承認<br>取下<br>承認<br>継続審議<br>承認<br>承認<br>承認 |
| 第 4 回 9 月 28 日 | 第1号議案　新入会員承認の件<br>第2号議案　新入会団体会員承認の件<br>第3号議案　委員会委員承認の件<br>第4号議案　地球惑星科学振興西田賞規則改定の件<br>第5号議案　地球惑星科学振興西田賞特定費用準備資金取扱規則改定の件<br>第6号議案　学生旅費補助準備資金名称変更の件 | 承認<br>承認<br>承認<br>承認<br>承認<br>承認 |

| | | |
|---|---|---|
| | 第7号議案　SAKIGAKE-JpGU Hard-rock drilling Focus Group kick-off workshop共催の件 | 承認 |
| 第5回12月4日 | 第1号議案　新入会員承認の件 | 承認 |
| | 第2号議案　委員会委員承認の件 | 承認 |
| | 第3号議案　2019年度の予算 | 承認 |
| | 第4号議案　「JpGU2016-2018大会の開催状況と財政状況の報告」について | 承認 |
| | 第5号議案　研究力強化に向けた女性活躍指標の整備に関する要望（案） | 承認 |
| | 第6号議案　大学等 高等教育機関の入学試験に対する声明文について（案） | 承認 |
| | 第7号議案　人材活用の見える化の検討 | 承認 |
| | 第8号議案　大会危機管理について | 承認 |
| | 第9号議案　国立大学教育研究評価委員会専門委員及び機関別認証評価委員会専門委員の候補者の推薦について | 承認 |
| 第6回1月15日 | 第1号議案　新入会員承認の件 | 承認 |
| | 第2号議案　寄附について | 承認 |
| | 第3号議案　2020年JpGU大会準備のためのタスクフォースの設置について | 承認 |
| | 第4号議案　2016年-2018年JpGU大会の実施状況についての報告文 | 承認 |
| | 第5号議案　所属機関払いによる支払い方法の改廃の検討について | 承認 |
| | 第6号議案　2019年度の予算 | 承認 |
| | 第7号議案　教育検討委員会教員養成等検討小委員会の廃止 | 承認 |
| | 第8号議案　フェロー審査委員長承認の件 | 承認 |
| | 第9号議案　西田賞審査委員長承認の件 | 承認 |
| | 第10号議案　男女共同参画学協会連絡会からの要望書および声明文の修正案 | 承認 |
| 第7回3月5日 | 第　1号議案　新入会員承認の件 | 承認 |
| | 第　2号議案　賛助会員入会承認の件 | 承認 |
| | 第　3号議案　委員承認の件 | 承認 |
| | 第　4号議案　寄附について | 承認 |
| | 第　5号議案　2019年度事業計画書および収支予算書承認の件 | 承認 |
| | 第　6号議案　2019年度フェローの認定 | 承認 |
| | 第　7号議案　第３回西田賞受賞者の認定 | 承認 |
| | 第　8号議案　AOGSとの相互参加の件 | 承認 |
| | 第　9号議案　職員雇用契約更新の件 | 承認 |
| | 第　10号議案　その他 | 承認 |

（3）学協会長会議

・平成30年5月22日（火）午後12時から13時23分　幕張メッセ国際会議場　101

・平成30年10月5日（金）午後3時から5時　東京大学地震研究所2号館第一会議室

議題は以下の通りである。

| 開催月日 | 議　事　事　項 |
|---|---|
| 第18回<br>5月22日 | 1.前回議事録確認<br>2.日本地球惑星科学連合活動報告<br>3.日本学術会議の近況報告<br>4.次期学協会長議長の選任<br>5．その他 |
| 第19回<br>10月5日 | 1.前回議事録確認<br>2.新規加入学協会の紹介「日本自然災害学会」<br>3.日本地球惑星科学連合活動報告<br>4.日本学術会議の近況報告<br>5.その他 |

## ３．関連団体との連携及び協力に関する事項

### □　共催・協賛・後援等

| 承認日 | 種別 | 会合名等 | 開催期間 |
|---|---|---|---|
| 4 月 13 日 | 後援 | 第 59 回高圧討論会 | 2018 年 11 月 26 日（月）～28 日（水） |
| 4 月 20 日 | 共催 | 第 13 回科学地理オリンピック日本選手権大会<br>兼第 16 回国際地理オリンピック選抜大会 | 2018 年 12 月～2019 年 3 月 |
| 6 月 8 日 | 後援 | 日本学術会議　公開シンポジウムグローバル時代のデータ利用と可視化 | 2018 年 10 月 15 日（月） |
| 7 月 31 日 | 協賛 | SOLAS　(Surface Ocean-Lower Atmosphere Study　海洋・大気間の物質相互作用研究計画 ) Open Science Conference | 2019 年 4 月 2 1 日（日）～年 4 月 2 5 日（木） |
| 7 月 19 日 | 後援 | 10th International Conference on Acid Deposition (ACIDRAIN 2020) | 2020 年 10 月 19 日（月）～10 月 23 日（金） |
| 7 月 31 日 | 共催 | アースサイエンスウィークジャパン | 2018 年 10 月 13 日（土）～10 月 19 日（金） |
| 9 月 28 日 | 共催 | SAKIGAKE-JpGU Hard-rock drilling Focus Group kick-off workshop | 2018 年 11 月 6 日（火）～　11 月 7 日（水） |
| 10 月 26 日 | 協賛 | 陸水物理研究会 2018 年度石垣大会 | 2018 年　11 月　16 日（金）～　11 月 18 日（日） |
| 11 月 7 日 | 後援 | 地学オリンピック日本委員会による地球科学講演会「地球をぶらり」 | 2018 年 11 月 24 日（土） |
| 11 月 16 日 | 協賛 | 日本化学連合シンポジウム<br>「大学の未来をどう描くか：国立大学法人経営統合等」 | 2018 年 12 月 26 日（水） |
| 11 月 21 日 | 協賛 | 2018 年度量子ビームサイエンスフェスタ | 2019 年 3 月 12 日（火）～3 月 13 日（水） |
| 12 月 7 日 | 後援 | 日本学術会議公開シンポジウム<br>「繰り返される災害―少子高齢化の進む地域で生き抜くということー」 | 2019 年 4 月 5 日（金） |
| 1 月 15 日 | 協賛 | 第 24 回計算工学講演会 | 2019 年 5 月 29 日（水）～31 日（金） |
| 2 月 19 日 | 後援 | 科学教育研究協議会　第 66 回全国研究大会・福岡大会 | 2019 年 8 月 9 日（金）～　2019 年 8 月 11 日（日） |
| 2 月 22 日 | 後援 | 「一家に 1 枚ポスター」日本列島 6 億年（仮） | 発行予定日：2019 年 4 月 |

**サポートレター**

| 承認日 | 行事名称 | 依頼者名 |
|---|---|---|
| 5 月 2 日 | 地球観測グランドデザイン | 今後の宇宙開発体制のあり方に関するタスクフォース会合（TF）リモートセンシング分科会 |
| 6 月 6 日 | 国際共同利用・共同研究拠点認定 | 名古屋大学宇宙地球環境研究所 |
| 6 月 6 日 | 国際共同利用・共同研究拠点認定 | 愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター |
| 6 月 15 日 | 国際共同利用・共同研究拠点認定 | 東京大学地震研究所 |
| 6 月 15 日 | 国際共同利用・共同研究拠点認定 | 高知大学海洋コア総合研究センター |
| 6 月 19 日 | 国際共同利用・共同研究拠点認定 | 岡山大学惑星物質研究所 |

**声明**

2 月 22 日　小惑星探査機「はやぶさ２」の小惑星離着陸成功に関する日本地球惑星科学連合の声明

**４．登記、申請等に関する事項**

なし

**５．職員に関する事項**

| 勤務形態 | 当期末<br>（平成 29 年 3 月末） | 前期末比増減 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 週 5 日勤務 | 1 名 | −2 名 | |
| 週 4 日勤務 | 5 名 | 0 名 | |
| 週２日勤務 | 0 名 | −5 名 | |
| 週１日勤務 | 2 名 | 0 名 | |
| 合　　計 | 8 名 | −7 名 | |

**６．その他**

（１）特定費用準備資金に関する事項

「学生旅費補助特定費用準備資金」の名称を「定期大会参加促進事業積立資金」に変更した。（9月28日理事会決議）

（２） 連合諸規則・規程等の制定と改正

事務局員（非常勤）就業規則を設置した。（5月2日理事会決議）
事務局員（非常勤）就業規則を設置した。（5月2日理事会決議）
ジャーナル事業事務局員（常勤）就業規則を設置した。（5月2日理事会決議）
ジャーナル事業事務局員（非常勤）就業規則を設置した。（5月2日理事会決議）
退職金規則を設置した。（5月2日理事会決議）
慰労金規則を設置した。（5月2日理事会決議）
賃金規則を設置した。（5月2日理事会決議）
フレックスタイム労使協定書を設置した。（5月2日理事会決議）
時給規則を設置した。（5月2日理事会決議）
総務委員会規則を改正した。（5月2日理事会決議）
地球惑星科学振興西田賞規則を改正した（9月28日理事会決議）
地球惑星科学振興西田賞規則を改正した（9月28日理事会決議）
地球惑星科学振興西田賞特定費用準備資金取扱規則を改正した（9月28日理事会決議）
教育検討委員会教員養成等検討小委員会を廃止した（1月15日理事会決議）

## Ⅱ．会員の状況

（平成 30 年 3 月末現在）

| | 第 3 期末 | 第 4 期末 | 第 5 期末 | 第 6 期末 | 第 7 期末 | 第 8 期末 | 増減 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 個人会員 | | | | | | | |
| 正会員 | 7540 | 7610 | 8021 | 8118 | 8184 | 8565 | 417 |
| 準会員<br>（学部生以下） | 392 | 410 | 418 | 663 | 956 | 1231 | 1175 |
| 大会会員 | 665 | 699 | 1061 | 703 | 518 | 567 | 49 |
| 団体会員 | 50 | 50 | 50 | 50 | 49 | 50 | 1 |
| 賛助会員 | 1 | 2 | 2 | 6 | 7 | 7 | 0 |

# 平成 31 年度

# 事業計画書

自　平成 31 年 4 月　1 日

至　平成 32 年 3 月 31 日

**公益社団法人日本地球惑星科学連合**

〒113-0032　東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階
電話：03-6914-2080　　Fax：03-6914-2088

## 平成 31 年度　事　業　計　画　書

公益社団法人第 9 期（平成 31 年 4 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日）

平成 31 年(2019 年)度は、公益社団法人日本地球惑星科学連合(以下、「連合」という。）の目的として定款に定める、「我が国の地球惑星科学コミュニティーを代表し、国際連携及び社会への情報発信、関連分野の研究発表及び情報交換を行い、学術及び科学技術の振興等に寄与することを目的とする活動」を推進する。特に、日本地球惑星科学連合大会とジャーナル出版とを連合の核心的活動と位置づけ、両事業を継続的に発展させる。平成 32 年(2020 年)度に日本地球惑星科学連合および関連活動は 30 周年を迎えることもあり，MOU を結んでいる AGU(米国地球物理学連合)、欧州地球科学連合(EGU)、アジア大洋州地球科学会(AOGS)と、共同セッションなどの開催を通じて 組織間の国際連携を一層強化し、地球惑星科学の更なる国際化の展開と発展を目指すとともに、中長期の活動をよりレベルアップするよう努力する。

## Ⅰ．事業の概要

### １．地球惑星科学に関わる研究発表会及び国際会議等の開催

（１）日本地球惑星科学連合 2019 年大会（JpGU Meeting 2019）の開催

地球惑星科学に関する学理及びその応用に関する研究発表を通じて、地球惑星科学の進歩と普及を図ることを目的に、当該科学に関連する研究、教育に携わる、あるいは関心を持つ全ての人々を対象として、公開による学術大会を開催し、関連分野の研究発表と情報交換の場を設ける。また、地球惑星科学に関連した研究教育機関、学協会、民間企業からの最新の情報や、各種プロジェクトの成果を大会参加者に紹介するための展示を設けるともに、学術研究及び教育に有益な、地球惑星科学関連書籍・機器・資料の展示を行う。

□ 日本地球惑星科学連合 2019 年大会 （JpGU Meeting 2018）

会　期：2019 年 5 月 26 日(土)～30 日(木)5 日間

場　所：幕張メッセ（国際会議場、国際展示場 8 ホール)、東京ベイ幕張ホール

大会委員長：寶　馨（京都大学）

主　催：公益社団法人日本地球惑星科学連合

後　援：41 団体（日本学術会議、文部科学省、国土交通省　国土地理院、気象庁　気象研究所、気象庁　地磁気観測所、国土交通省　海上保安庁、国立教育政策研究所、地方独立行政法人　北海道立総合研究機構　環境・地質研究本部地質研究所、独立行政法人　石油天然ガス・金属鉱物資源機構、独立行政法人　国立科学博物館、国立研究開発法人　宇宙航空研究開発機構、国立研究開発法人　海洋研究開発機構、国立研究開発法人　国立環境研究所、国立研究開発法人　産業技術総合研究所、国立研究開発法人　情報通信研究機構、国立研究開発法人　森林総合研究所、国立研究開発法人　土木研究所、国立研究開発法人　農業・食品産業技術総合研究機構　農村工学研究部門、国立研究開発法人　物質・材料研究機構、国立研究開発法人　防災科学技術研究所、国立研究開発法人　理化学研究所、大学共同利用機関法人　高エネルギー加速器研究機構、大学共同利用機関法人　自然科学研究機構　国立天文台、大学共同利用機関法人　情報・システム研究機構　国立極地研究所、大学共同利用機関法人　情報・システム研究機構　統計数理研究所、大学共同利用機関法人　人間文化研究機構　総合地球環境学研究所、一般社団法人全国地質調査業協会連合会、一般社団法人　電子情報通信学会、一般社団法人　東京都地質調査業協会、一般社団法人　日本機械学会、一般社団法人日本航空宇宙学会、一般社団法人　日本分析機器工業会、一般財団法人　電力中央研究所、一般財団法人　日本宇宙フォーラム、公益財団法人　地震予知総合研究振興会、公益財団法人　地球環境産業技術研究機構、公益財団法

人　深田地質研究所、公益社団法人　日本測量協会、公益財団法人　ちば国際コンベンションビューロー、千葉市、千葉市教育委員会）

協　賛：6 学協会（公益社団法人日本天文学会、 公益社団法人土木学会、 公益社団法人日本地震工学会、 公益社団法人日本地すべり学会、 公益社団法人地盤工学会、日本サンゴ礁学会）

開催セッション数：244

| カテゴリー別 | 開催数 |
|---|---|
| P: 宇宙惑星科学 | 25 |
| A: 大気水圏科学 | 45 |
| H: 地球人間圏科学 | 35 |
| S: 固体地球科学 | 62 |
| B: 地球生命科学 | 8 |
| G: 教育アウトリーチ | 8 |
| M: 領域外・複数領域 | 61 |
| 計 | 244 |

発表論文数：5000 件（概算、予定）

参加者数：8000 人（見込み）

展示企画（ブース数）：団体展示（70）、書籍出版関連商品（30）、大学インフォメーションパネル（12）、学協会エリア個別デスク（13）、パンフレットデスク展示（7）

「スペシャルレクチャー」の開催

学部生や院生を主たる対象として、連合大会会期中の昼食時にスペシャルレクチャーをシリーズで開催する。異分野の聴衆を対象に、「わかりやすい」内容となる講演会を開催する。

期　日： 5 月 26 日（土）～5 月 30 日(木)

場　所： 会場内

主　催： 大会運営委員会

（2）「高校生によるポスター発表」の開催

将来を担う高校生を対象に、授業や課外活動で行った地球惑星科学に関連する研究や学習の成果を研究者に対して発表するため、連合大会初日（5 月 26 日、日曜日）にポスター発表会を開催する。今年度も前年度程度（80 件）の発表を予定している。

（3）地球惑星科学関連の一般公開プログラムの開催

一般市民を対象として、地球惑星科学に関連した研究成果の広報・普及活動を通して地球惑星科学の普及を図るために、連合大会会期中に一般公開プログラムを開催する。

また、冬季（12 月予定）に一般市民（とくに高校生）を対象として、「日本地球惑星科学連合 冬の公開講演会 2019」を開催予定である。

□ 連合大会パブリックセッション（予定）

ブラタモリの探究−「つたわる科学」のつくりかた

地球・惑星科学トップセミナー

高校生によるポスター発表

社会とＪｐＧＵとの相互交流によって創る新しい地球惑星科学教育

日本人がやりがちなおかしな英語

激甚化する風水害にどう対応するか

キッチン地球科学：手を動かす実験で頭脳を刺激しよう！

ジオパークで地球活動をイメージする −ジオ多様性の大切さを知ろう−

□ 中高生のための「ＮＡＳＡ―ＪＡＸＡハイパーウォール講演会」

□ 日本地球惑星科学連合　冬の公開講演会 2019

期　　日：2019 年 12 月　（予定）

場　　所：東京大学理学部小柴ホール（予定）

主　　催：広報普及委員会

内　　容：地球惑星科学分野の最新の研究成果を、高校生を中心に広く一般市民向けにわかりやすく紹介・解説する公開講演会。（内容は未定）

（4）地球惑星科学関連の研究教育機関・学協会・プロジェクト・民間企業の紹介および展示、地球惑星科学関連書籍・機器・資料の展示・頒布

地球惑星科学に関連した教育機関、学協会、ならびに各種プロジェクトについて、関係者のみならず、高校生を含む一般に紹介・広報することを目的に、プロジェクトを推進する諸機関、団体に対して連合大会会場にて展示活動を支援する場を設ける。

地球惑星科学に関連する書籍、資料の公刊物を多数展示し、頒布するための場を設けて、地球惑星科学関連の研究、教育に携わる人々や、高校生を含む一般の方々の利用促進をはかる。

## ２．地球惑星科学に関わる研究成果の刊行及び教育普及

我が国の地球惑星科学及び関連科学の振興と普及を目的として、地球惑星科学に関する学理及びその応用に関する知識や情報の交換の促進を図るために、連合学術誌の出版事業とと

もに、連合加盟学協会の出版事業の広報普及の支援を行う。

（１）連合学術誌の出版の高度化

平成 26 年４月に初版が発刊された連合のオープン・アクセス（OA）電子ジャーナル”Progress in Earth and Planetary Science(PEPS)”のさらなる国際情報発信力強化を図る。 H30 年度に、ジャーナルの世界的評価指標である Clarivate Analytics（旧 Thomson Reuter）の IF（インパクト・ファクター）と Elsevier/Scopus の Cite Score を取得し、PEPS が一定のレベルにある事が数値により裏付けされた。

これを受けて、 ジャーナルの認知度をさらに高め、 投稿及び引用を促進するための施策を推進する。 具体的には、国内外の国際会議へのブース出展やパンフレットへの広告掲載などを通じて強力な広報活動を実施するとともに、 出版論文の効果的な紹介や著名研究者への Review 論文投稿依頼などにより引用促進に取組む。また、2019 年連合大会を活用し、コンビーナ推薦の優秀発表への投稿依頼、セッションコンビーナへの SPEPS 特集号の働きかけをより強力に推進する。さらに、他ジャーナルとの協力体制を強め、連携して SPEPS 特集号の企画や相互 HP での紹介等を実施する。また、アジア圏編集委員を増強して出版体制とアジア圏への発信力の強化を図る。

（２）連合加盟学協会による学術誌出版の広報普及支援

連合加盟学協会による十数種の国際誌出版を数えると、全体としては AGU、EGU に匹敵していることに鑑み、国際誌を出版する学協会に連合ロゴの掲載依頼をさらに働きかけ、共同で学術誌の広報普及活動を行う。具体的には、連合のホームページ上での紹介、海外で開催される AGU、EGU 等の国際学術大会で出展する連合ブースにおける展示紹介など、日本の地球惑星科学コミュニティーを代表して、科学的知見に関する情報の発信をより強化する。

（３）ニュースレター誌「Japan Geoscience Letters（JGL)」の発行

連合の会員（個人・団体会員）及び、科学館、博物館、高等学校教員、関連企業等の関係者や一般市民を対象として、地球惑星科学の研究成果の広報・普及を目的としてニュースレター誌「JGL」を年４号（予定）定期発行する。

発行部数　：10,000 部
配 布 先　：会員（個人、団体）
国立国会図書館
科学館（日本科学未来館、日本科学技術館他）
博物館（国立科学博物館、神奈川県立生命の星・地球博物館他）
高等学校（東京都立戸山高等学校、千葉県立船橋高等学校、早稲田大学

高等学院他）
関連企業（NPG ネイチャーアジア・パシフィック、株式会社タイロス他）

（４）ウェブサイト、メールニュースを活用した広報・普及事業

連合の会員及び一般市民を対象に、ウェブサイトや毎月発行のメールニュース等を通して、地球惑星科学に関連するニュース、国内外の学会・シンポジウム・研究集会・一般公開イベントや求人・公募等の情報を配信する。メールニュースの内容を一層充実させ、毎月定期号を配信するほか、ウェブサイトによる情報発信及びコンテンツの充実を図り、会員及び一般市民が地球惑星科学関連情報にアクセスしやすい環境を提供する。

## ３．地球惑星科学コミュニティーにおける意見集約とこれに基づく提言

地球惑星科学コミュニティーの意見を集約するとともに、学協会や日本学術会議から提案される重要な課題、及び国及び社会からの諸要請に対応するために、以下の活動を行う。

（１）学協会長会議の開催

国内の地球惑星科学及び関連分野の研究者を対象に、学協会長会議を年に２回開催して、地球惑星科学コミュニティーの意見集約を行うとともに、自然科学に関わる国内外の情勢についての情報交換を行う。連合理事会からの諮問、及び学協会や日本学術会議から提案される重要な課題について議論し、意見集約と対外的情報発信を行う。

□ 第 18 回学協会長会議
期日：2019 年 5 月 28 日（火）12：30～13：30（予定）
場所：幕張メッセ国際会議場 （予定）

□ 第 19 回学協会長会議
期日：2019 年 10 月（予定）
場所：東京大学 （東京都文京区）（予定）

（２）地球惑星科学コミュニティーの意見集約

国及び社会一般からの諸要請に基づき、地球惑星科学コミュニティーの意見集約と、コミュニティーへの情報伝達を行う。特に、日本学術会議が発出する声明を連合ウェブやメールニュース、関連メーリングリストを通じて地球惑星科学コミュニティーへの周知をサポートする。

また、学術会議からの依頼に基づき連合大会会期中に全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会を開催する。

□ 全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会

期日：連合大会　会期中

場所：幕張メッセ国際会議場　（予定）

## ４．地球惑星科学に関わる外国学協会との連携と国際プロジェクトの推進

我が国の地球惑星科学コミュニティーを代表して、地球惑星科学の国際的な発展に寄与することを目的に、地球惑星科学に関する国際的な研究協力と交流活動の推進を図る。

（1）地球惑星科学に関わる国際学協会との連携及び協力

ヨーロッパの EGU、米国の AGU、ならびにアジアの AOGS 等の国際的な学協会と連携協力し、地球惑星科学に関わる国際会議等の企画、開催、国際的プロジェクトの推進等を行う。

| 開催日 | 出展大会名 | 開催場所 |
|---|---|---|
| 2019 年 4 月 7 日～4 月 12 日 | EGU General Assembly 2019 | ウィーン（オーストリア） |
| 2019 年 7 月 28 日～8 月 2 日 | AOGS 16th Annual Meeting | シンガポール |
| 2019 年 12 月 9 日～13 日 | AGU 2019 Fall Meeting | サンフランシスコ（アメリカ合衆国） |

（2）国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援

高校生を対象に、地球惑星科学への認識を高めるとともに地球惑星科学の学習を促進と若年層による国際交流を深めることを目的に、国際科学（地学・地理）オリンピックを連合の共催事業として行う。

・第 13 回国際地学オリンピック

期日：2019 年 8 月 26 日～9 月 2 日

場所：大邱（韓国）およびその周辺

・第 16 回国際地理オリンピック

期日：2019 年 7 月 30 日～ 8 月 5 日

場所：香港（中国）およびその周辺

## ５．地球惑星科学知見の社会還元

地球惑星科学の研究成果を統合的な形で社会へ還元し、地球惑星科学の振興と教育・普及の促進に向け科学的提言を発信する。

（1）複合的自然災害への対応と科学的提言の発信

地球上で起こる自然災害事象の複合化に備え、地球惑星科学の総合的、かつ蓄積された研究成果を社会へ還元することを目的として、風水害、地震、火山、津波などの自然災害などの統合的な対策にむけた科学的提言を行う。

（2）複合的自然災害リテラシーの普及

複合的自然災害に対して、国民の基礎知識を高め、突発的災害によるリスクを最小化することを目指し、自然災害に関する大量の情報の中から必要なものを探し、情報を加工して意思決定するための基礎的な知識や技能（複合的自然災害リテラシー）の普及を支援するための活動を行う。

## ６．セクションサイエンスボードおよび委員会活動

広く国内外の地球惑星科学関連分野の研究者を対象に、地球惑星科学の推進と学術の推進振興を図ることを目的として、ユニオンサイエンスボード及びセクションサイエンスボード、ならびに各委員会の活動を推進する。

（1）サイエンスボードの活動

宇宙惑星科学セクション

・宇宙惑星科学セクションでは、昨年度に引き続き、当該分野の研究の長期的なビジョンと日本の果たすべき役割について、議論を深める。
・連合大会において、宇宙惑星科学セクションは半数が国際セッションであり、その多くが AGU との合同セッションとなった。2020 年大会の AGU との共同開催を意識し、セッションの国際化を強化する方向で努力を続ける。
・連合大会において、昨年に引き続き、学生優秀発表を選考して表彰する。PEPS 誌、及びこれまで深く関与してきた EPS 誌を支援する。連合の顕彰、主催講演会などに候補者を推薦する。
・セクションの活動のために、連合大会期間中にセクションボード会議を行うほか、関連学会の秋季講演会などの機会を利用してセクションボード会議を開催する。

大気水圏科学セクション

・2019 年度連合大会時にセクションボードメンバー及び代議員を招集しセクションボードミーティングを開催する。
・夢ロードマップ改訂および大型研究計画についての検討を進める。
・大気水圏科学分野に関係する研究集会にセクションとして共催または協賛し開催を援助する。
・水文分野 5 学会合同のレター誌「Hydrological Research Letters」の出版に関わる協議会に参加し、活動を支援する。
・今後の宇宙開発体制のあり方に関する「タスクフォース会合・リモートセンシング分科会（TF)」コミュニティの地球科学研究高度化ワーキンググループの活動に参加し、議論を行う。

・セクションのウェブページを更に充実させ、セクションの活動を社会に発信する。

地球人間圏科学セクション

・セクション活動の活性化にむけて、地球人間科学セクションにおいて多分野の研究者をセクションボードに迎えることで充実させる。
・2019 年度の連合大会においてセクションボードミーティングを開催し、学生優秀発表賞選考に関わる議論を行い、表彰活動を行う予定である。
・2019 年連合大会において AGU ならびに EGU とのジョイントセッションを行い連合と AGU・EGU との協働につなげる。
・2019 年開催の連合大会開催に向けアブトラクト申請を呼びかけ大会時の地球人間圏科学関連セクションの充実を図る。
・2019 年開催の連合大会の講演者の旅費・登録料を支援する。
・地球人間圏科学セクションのボードメンバーのミーティングを年度末におこない、翌年度の活動方針を話し合う機会を設ける。
・日本学術会議・地球惑星科学委員の会活動ならびに同委員会のもとにおかれている地球人間圏分科会との連携(シンポジウム、ロードマップ、大型研究計画など)をはかる。
・ジオ・ユニオン活動（IGU 大会、 ICA 大会、INQUA 大会、IAG 大会など）との連携を進める。

固体地球科学セクション

・ 必要に応じてセクションボードのメンバーを拡充し、セクションの活動を新たなメンバーとともに活性化する。
・ 前年に引き続き、固体地球セクションの代議員とセクションボードの情報共有を促進し、代議員とセクションボードの意思疎通の改善を推進する。
・ JpGU2019 において、固体地球科学セクション関連セッションを開催するとともに海外からの招待講演者の旅費を支援する。
・ JpGU2019 期間中に、固体地球科学セクションボードミーティングを開催する。
・ JpGU2019 の期間以外にも、固体地球科学セクションボードの臨時ミーティングを開催し、JpGU-AGU2020 に向けて対応を協議するとともに国際セッションの提案を推進する。
・ JpGU2019 期間中に、セクション・フォーカスグループのミーティングを開催する。
・ セクションの内部構造を充実させるために、さらなるフォーカスグループ創設を推進する。
・ フォーカスグループが継続的に連合大会で国際セッションを提案し、さらに海外の組織と連携した国際会議を共催することを支援する。このような支援を通して、JpGU-AGU 2020 などの大会における国際セッションの継続的な提案を促進する。
・ 英語版を含めてホームページの充実を検討する。

・ セクションの褒賞制度を充実させるために、連合の顕彰委員会と緊密に連携して新たな褒賞の可能性を検討する。

地球生命科学セクション

・連合大会において地球生命科学関連セッション（国際セッション含む）を開催する。
・連合大会期間中にサイエンスボードのビジネスミーティングを行う。
・連合大会の地球生命科学関連セッションで学生優秀発表賞の審査を行う。
・地球生命科学振興の中長期計画の策定を行う。
・「夢ロードマップ」の改訂を行う。
・地球生命科学セクションの若手メンバーの国際的活動の支援を行う。
・PEPS への優れた地球生命科学関連の論文投稿を促進する。
・地球生命科学セクションに関するトピックのアウトリーチ活動への派遣を促進する。

（2）顕彰関連活動

連合大会における「学生優秀発表」の表彰を行う。連合大会における学生優秀発表賞の表彰をセクション単位で実施する。学生優秀発表賞のシステムの充実を図り、審査用 WEB システムを利用して、学生優秀発表表彰制度の安定的な運営をめざす。

・連合フェロー顕彰： 2019 年度フェローを顕彰する。2020 年度フェロー候補者を募集し審査する。
・地球惑星科学振興西田賞顕彰：2019 年連合大会において第 3 回地球惑星科学振興西田賞受賞者の表彰を行う。
・日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）：第 47 回受賞候補者の募集と審査を行う。
・学生旅費助成制度： 昨年に引き続き、大会参加のための学生旅費助成の審査を行う。

（3）各委員会活動

各委員会では年間を通じて委員会を随時開催するとともに、担当理事を通じて理事会への活動報告を行い、委員会と理事会の意志疎通をはかる。特に今年度は以下の委員会活動を推進する。

総務委員会

公益社団法人の円滑な運営と体制強化のための、諸規則の整備を図る。特に連合事務局の就業規則や給与関連規則等を整備し、事務局職員の勤務にフレックスタイム制度の導入を検討する。

財務委員会

・中長期的に安定的に日本地球惑星科学連合を運営する上での財務面の課題と対策を検討する。
・2019 年度決算書、2020 年度予算書を策定する。

大会運営委員会
・連合大会の参加者増を目指し、満足度の高いプログラムや企画の充実にむけた方策を企画検討する。
・2019 年大会の準備を進める。

情報システム委員会
ORCID について会員にさらに情報を提供しつつ、連合における ORCID 情報、および ORCID に紐づいた情報を有効活用するための検討と作業を継続する。学術情報管理・流通およびオープンサイエンスに関して、AGU との連携を人的交流を含めて強化しつつ、連合においてオープンサイエンスを促進するための検討、活動を継続する。

グローバル戦略委員会
・2018 年連合大会において AGU との連携の活性化を図る。
・同大会で International Mixer Luncheon を開催する。昨年大会に引き続き連携海外組織とミーティングを開催し連携力強化を図る。
・2019 年連合大会の開催準備を行う。
・EGU・AOGS・AGU 等の連携海外組織の大会にブース出展をし、連合、ジャーナル、加盟学協会の活動紹介をする。
・発信力強化のため、連合ホームページにおける英語ページのより一層の充実をはかる。またパブリックアナウンスメントがある場合、翻訳し掲載する。
・2020 年開催する JpGU-AGU ジョイントミーティングに向けた準備としてセッションの英語化などを推進する。

教育検討委員会
・地球惑星科学関連の一般公開プログラムの開催
一般市民を対象として、地球惑星科学に関連した研究成果の広報・普及活動を通して地球惑星科学の普及を図るために、連合大会会期中に一般公開プログラムを開催する。
・パブリックセッション「社会と JpGU との相互交流によって創る新しい地球惑星科学教育」
期日：5 月 26 日（日）
主催：教育検討委員会
内容：これから始まる小中高校の次期学習指導要領では、各学校が求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、「社会に開かれた教育課程」が編成されるべきと論じている。

また初等中等教育と大学との接続も重要視されている。そこで教員、研究者、学生、一般市民等、様々な立場の方が一堂に会し、互いの置かれた状況を踏まえた上で、新しい地球惑星科学（地理・地学）教育に対する期待や解決するべき課題について議論を深める。

・学校教育／社会教育に関する活動

・初等・中等学校教育および大学・大学院教育に関わる諸課題の解決に向けて、日本学術会議地球惑星科学委員会地球惑星科学人材育成分科会と連携して活動する。

・全国高校地学教員対象の情報交換会を開催する。2018 年に京都で開催された研究集会「地学教育の展望－来たるべき南海トラフ地震に備えて－」に続く研究集会の東京での開催に協力する。

・地球惑星科学教育が十分に行われていない地域の学校・教員への支援のため、地球惑星科学実習帳の CD の配布およびインターネット上での公開を継続する。

・国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援

・高校生を対象に、地球惑星科学への認識を高めるとともに地球惑星科学の学習を促進と若年層による国際交流を深めることを目的に、国際科学（地学・地理）オリンピックを連合の共催事業として行う。

・前回地理オリンピック大会の成績不振への対策として、①英語力の強化，②フィールドワークテストに対応した強化研修の充実，③選抜方法の見直し等を行う。

・第 13 回国際地学オリンピック

期日：2019 年 8 月 26 日～9 月 2 日

場所：大邱（韓国）およびその周辺

注）国内選抜は、2018 年 12 月 16 日予選（マークシート）、2019 年 3 月 10 日～12 日、本選（記述式）、2019 年 3 月 12 日～13 日代表選抜（面接等）にて実施済

・第 16 回国際地理オリンピック

期日：2019 年 7 月 30 日～ 8 月 5 日

場所：香港（中国）およびその周辺

注）国内選抜（国内大会）は、2018 年 12 月 15 日第 1 次選抜（マルチメディアテスト）、2019 年 2 月 17 日第 2 次選抜（記述式テスト）、2019 年 3 月 9 日～10 日第 3 次選抜（フィールドワークテスト）にて実施済。

・国際的な地球惑星科学教育の普及と交流

・AGI（American Geoscience Institute）が、毎年、世界各地で開催している Earth Science Week と連携して、アースサイエンスウィーク・ジャパンを 2019 年 10 月 12 日～18 日に静岡県で開催する。講演会（12 日、13 日）、巡検（12 日）などを予定している。

・その他

・教員免許更新講習を実施する。

・理数系学会教育問題連絡会に参加して、学校での理数・情報教育の改善に向けた活動を行う。理数系教育シンポジウムを共催する。

・教育検討委員会 HP により、理数系学会および連合に加入する各学協会が行っている、教育に関連する様々な活動と教育上の諸問題への対応についての情報を共有する。

広報普及委員会

・2019 年連合大会で、パブリックセッション「高校生によるポスター発表」を開催予定

・2019 年連合大会で、パブリックセッション「地球・惑星科学トップセミナー」を開催予定、映像を記録して動画配信予定

・2019 年連合大会で、中高生向けに「NASA-JAXA ハイパーウォール講演会」を開催し、その宣伝及び運営サポートを行う予定

・2019 年連合大会で、スチルカメラマンを雇用して会場の様子を記録・公開予定

・2019 年連合大会で、記者会見用ブース及びメディア用作業スペースを作成・設置予定

・2019 年連合大会で、日本地球惑星科学連合の展示ブースを開設予定

・2019 年連合大会で発表される論文の中からハイライト論文を採択予定

・2019 年連合大会の概要及びハイライト論文などのプレスリリースを行う予定

・2019 年連合大会パブリックセッション等用に日本地球惑星科学連合ノベルティグッズを作成予定

・2019 年 12 月頃に「日本地球惑星科学連合秋の公開講演会 2019」を開催予定、その映像を記録して動画配信予定

・連合ニュースレター誌 JGL を年間 4 号編集・発行予定

・2019 年連合大会プログラム日本語版を JGL 春号の一部として掲載・発行予定

・2019 年度連合フェロー受賞者記念特集原稿の編集し、JGL 及び連合ウエブに掲載予定

・連合メールニュース定期号を年間 12 号、程度配信予定

・連合ウェブサイトの運用予定

・連合ウェブサイトを活用した広報・普及事業（公開講演会等の動画配信を含む）を行う予定

・連合ウェブサイト英語版を作成・拡充予定

・2019 年 8 月ころに広報普及委員会を開催予定

・2019 年大会で開催するパブリックセクションの採択に向けた検討をパブリック小委員会で行う。

ジャーナル企画経営委員会

・ジャーナルの中長期経営戦略（企画、財政、方針など）及び他誌との協調・発展について、

随時委員会を開催して検討する。また、将来的に連合の金銭的補助なしで独立した出版活動を行うための方向性を検討する。

ジャーナル編集委員会

・編集長会議と全体編集会議を開催し、論文投稿及び引用を促進するための施策、編集方針や問題点の解決策について検討する。

ダイバーシティ推進委員会

・キャリアパスアンケートの実施とこれまでの結果のまとめ（1 月～6 月頃）
・2019 年連合大会時に委員会を開催予定
・2019 年連合大会でのパブリックセッションの開催
・2019 年連合大会でのユニオンセッションの開催と EGU・AGU との連携
・2019 年連合大会でのキャリアパス支援ブースの運営
・2019 年連合大会での保育室開室の支援
・人材育成活動（マッチングのウェブ整備の検討）（通年）
・ハラスメントに関する取り組みについての議論（通年）
・委員会ウェブサイトの整備（通年）
・男女共同参画学協会連絡会対応、若手研究者育成 WG の活動（通年）
・女子中高生夏の学校 2019 への参加（実行委員としても参画し、実験実習、ポスター展示、進路相談などの多様な企画を協賛予定）（おもに 8 月、準備は通年）

顕彰委員会、学生優秀発表賞小委員会

・日本地球惑星科学連合の顕彰活動に関連する事案を検討し、顕彰制度の規則などの設計ならびに運営に関する議論を行い、理事会へ答申する。
・顕彰事業の一環として、連合大会における学生旅費助成審査を行う。
・顕彰委員会内に設けた学生優秀発表賞小委員会により、連合大会における学生優秀発表賞制度を運営する。

フェロー審査委員会

連合大会でのフェロー表彰に向けて、フェローを選考し、理事会に推薦する。

地球惑星科学振興西田賞審査委員会

本賞の審査を隔年で行うが 2019 年度は該当年度ではない。本年度は第３回受賞者の表彰を連合大会にて行う。

本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）審査委員会

本賞の審査を隔年で行う。本年度は第４７回受賞候補者の募集と審査を行う。また第４７回受賞者の連合大会での表彰のための準備を行う。

# 2019年度　収支予算書

2019年 4月 1日から2020年 3月31日まで

公益目的事業会計

| 科　　目 | 2020年度収支予算書 | 前年度収支予算書 |
|---|---|---|
| 一般正味財産増減の部 | | |
| 1. 経常増減の部 | | |
| (1) 経常収益 | | |
| 基本財産運用益 | 2,000 | 1,600 |
| 基本財産受取利息 | 2,000 | 1,600 |
| 特定資産運用益 | 2,000 | 2,000 |
| 特定資産受取利息 | 2,000 | 2,000 |
| 受取会費 | 12,500,000 | 12,300,000 |
| 当年度会費 | 12,500,000 | 12,300,000 |
| 事業収益 | 155,669,000 | 161,796,258 |
| **学術大会収益** | 154,821,000 | 161,146,258 |
| 大会参加料収入 | 105,869,000 | 109,332,065 |
| 投稿料収入 | 19,156,000 | 19,345,012 |
| 団体展示料収入 | 22,466,000 | 25,920,000 |
| 大学インフォメーション収入 | 913,000 | 700,000 |
| 書籍展示収入 | 1,351,000 | 1,400,000 |
| パンフレットデスク収入 | 65,000 | 61,020 |
| 会議室使用料収入 | 2,624,000 | 2,000,000 |
| 懇親会収入 | 671,000 | 900,000 |
| 学協会出展料 | 421,000 | 488,160 |
| その他 | 1,285,000 | 1,000,000 |
| 刊行事業収益 | 848,000 | 650,000 |
| JGL広告収入 | 848,000 | 650,000 |
| メールニュース | | |
| 受取補助金 | | 838,260 |
| 25年度科学研究費補助金 | | 838,260 |
| 29年度科学研究費補助金 | | |
| 30年度科学研究費補助金 | | |
| 千葉県国際会議開催補助金 | | |
| 千葉市国際会議開催補助金 | | |
| 千葉国際コンベンションビューロー | | |
| 受取寄付金 | 150,000 | 5,300,000 |
| 地球惑星科学振興西田賞 | 0 | 5,000,000 |
| 会員寄附 | 150,000 | 300,000 |
| 雑収益 | 424,000 | 21,000 |
| 受取利息 | 18,000 | 18,000 |
| その他 | 406,000 | 3,000 |
| 指定正味財産より | 1,300,000 | |
| | | 0 |
| 経常収益計 | 170,047,000 | 180,259,118 |
| (2) 経常費用 | | |
| 事業費 | 161,978,000 | 190,470,320 |
| 給料手当 | 20,500,000 | 24,575,000 |
| 法定福利費 | 3,000,000 | 2,927,000 |
| 退職給付費用 | 360,000 | 510,000 |
| 臨時雇用賃金 | 5,831,001 | 4,034,000 |
| 会議費 | 4,712,000 | 7,405,400 |
| 旅費交通費 | 16,722,000 | 18,603,830 |
| 通勤費 | 1,336,000 | 1,738,830 |
| 交通費(学生旅費補助含) | 15,386,000 | 16,865,000 |
| 通信運搬費 | 3,852,000 | 3,919,000 |
| 減価償却費 | 7,491,000 | 6,550,000 |
| 消耗什器備品 | 100,000 | 100,000 |
| 消耗品 | 3,301,000 | 4,106,000 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 保守費 | | 6,507,000 | 5,400,000 |
| 印刷製本費 | | 8,449,000 | 17,925,000 |
| | プログラム編集費 | 2,853,000 | 500,000 |
| | プログラム印刷製本費 | 0 | 3,284,000 |
| | ポスター印刷費 | 214,000 | 280,000 |
| | JGL印刷費 | 2,651,000 | 4,996,000 |
| | ジャーナル印刷費 | 2,000,000 | 8,000,000 |
| | その他 | 731,000 | 865,000 |
| 図書費 | | 50,000 | 300,000 |
| 出展費 | | 701,000 | 270,000 |
| 賃借料 | | 57,931,000 | 64,248,940 |
| | 事務所賃借料 | 3,103,000 | 2,960,000 |
| | 事務機賃借料 | 302,000 | 250,000 |
| | 大会 会場賃借料 | 32,314,000 | 36,018,000 |
| | 大会（設営・設備・備品等） | 21,904,000 | 24,157,440 |
| | その他 | 308,000 | 863,500 |
| 諸謝金 | | 1,368,000 | 1,488,000 |
| 租税公課 | | 3,550,000 | 3,570,000 |
| 支払手数料 | | 3,558,000 | 4,303,000 |
| 支払賛助金 | | 1,050,000 | 970,000 |
| 委託費 | | 11,692,000 | 11,912,000 |
| | システム関係 | 4,212,000 | 3,000,000 |
| | その他 | 7,480,000 | 8,912,000 |
| 表彰費 | | 0 | 5,000,000 |
| 雑費 | | 72,000 | 870,000 |
| 保険料 | | 1,181,000 | 83,150 |
| 広告宣伝費 | | 0 | 1,400,000 |
| | 管理費 | 8,211,000 | 11,102,000 |
| 給料手当 | | 3,200,000 | 5,300,000 |
| 法定福利費 | | 300,000 | 300,000 |
| 退職給付費用 | | 0 | 42,000 |
| 会議費 | | 20,000 | 30,000 |
| 旅費交通費 | | 1,270,000 | 1,600,000 |
| | 通勤費 | 170,000 | 300,000 |
| | 交通費 | 1,100,000 | 1,300,000 |
| 通信運搬費 | | 224,000 | 150,000 |
| 消耗什器備品 | | 100,000 | 100,000 |
| 消耗品費 | | 269,000 | 250,000 |
| 賃借料 | | 800,000 | 950,000 |
| | 事務所賃借料 | 750,000 | 800,000 |
| | 事務機賃借料 | 50,000 | 100,000 |
| | その他 | 0 | 50,000 |
| 諸謝金 | | 1,296,000 | 1,300,000 |
| 租税公課 | | 202,000 | 260,000 |
| 保守費 | | 100,000 | 300,000 |
| 支払手数料 | | 350,000 | 400,000 |
| 雑費 | | 80,000 | 120,000 |
| 経常費用計 | | **170,189,000** | **201,572,320** |
| **当期経常増減額** | | **-142,000** | **-21,313,202** |
| 一般正味財産増減額 | | | |
| 一般正味財産期首残高 | | | |
| 一般正味財産期末残高 | | | |
| Ⅱ　指定正味財産増減の部 | | | |
| | 受取補助金 | | |
| | 受取寄付金（西田賞） | | |
| | 特定資産運用益 | | |
| | 一般正味財産への振替額 | | |
| | 当期指定正味財産増減額 | | |
| | 指定正味財産期首残高 | | |
| | 指定正味財産期末残高 | | |
| Ⅲ　正味財産期末残高 | | | |
| | | | |

# 貸借対照表

平成31年 3月31日現在

公益目的事業会計　　（単位:円）

| 科目 | 当年度 | 前年度 | 増減 |
|---|---|---|---|
| Ⅰ 資産の部 | | | |
| 1．流動資産 | | | |
| 現金預金 | 69,278,627 | 82,352,752 | -13,074,125 |
| 未収金 | 31,784 | 37,025 | -5,241 |
| 未成事業支出金 | 16,503,025 | 16,580,256 | -77,231 |
| 預け金 | 2,096,480 | 2,483,633 | -387,153 |
| 前払費用 | 5,845,206 | 282,742 | 5,562,464 |
| 仮払金 | 780 | 5,562,464 | -5,561,684 |
| 未収消費税等 | 505,200 | 0 | 505,200 |
| 流動資産合計 | 94,261,102 | 107,298,872 | -13,037,770 |
| 2．固定資産 | | | |
| (1) 基本財産 | | | |
| 定期預金 | 5,000,000 | 5,000,000 | 0 |
| 基本財産合計 | 5,000,000 | 5,000,000 | 0 |
| (2) 特定資産 | | | |
| 定期大会参加促進事業積立金 | 8,000,000 | 12,000,000 | -4,000,000 |
| 地球惑星科学振興西田賞準備資金 | 10,000,000 | 10,000,000 | 0 |
| 大会インセンティブ資金 | 1,900,000 | 0 | 1,900,000 |
| 特定資産合計 | 19,900,000 | 22,000,000 | -2,100,000 |
| (3) その他固定資産 | | | |
| 什器備品 | 43,471 | 187,547 | -144,076 |
| ソフトウェア | 22,941,628 | 19,016,637 | 3,924,991 |
| 保証金 | 483,090 | 661,650 | -178,560 |
| その他固定資産合計 | 23,468,189 | 19,865,834 | 3,602,355 |
| 固定資産合計 | 48,368,189 | 46,865,834 | 1,502,355 |
| 資産合計 | 142,629,291 | 154,164,706 | -11,535,415 |
| Ⅱ 負債の部 | | | |
| 1．流動負債 | | | |
| 未払金 | 8,339,094 | 8,007,176 | 331,918 |
| 未払費用 | 2,538,877 | 2,960,942 | -422,065 |
| 未成事業受入金 | 39,951,910 | 38,932,080 | 1,019,830 |
| 前受会費 | 6,034,500 | 6,018,660 | 15,840 |
| 預り金 | 447,691 | 792,434 | -344,743 |
| 仮受金 | 1,000 | 2,205,080 | -2,204,080 |
| 未払消費税等 | 0 | 3,081,200 | -3,081,200 |
| 流動負債合計 | 57,313,072 | 61,997,572 | -4,684,500 |
| 負債合計 | 57,313,072 | 61,997,572 | -4,684,500 |
| Ⅲ 正味財産の部 | | | |
| 1．指定正味財産 | | | |
| 指定正味財産合計 | 11,900,000 | 10,628,696 | 1,271,304 |
| 2．一般正味財産 | 73,416,219 | 81,538,438 | -8,122,219 |
| （うち基本財産への充当額） | 5,000,000 | 5,000,000 | 0 |
| 正味財産合計 | 85,316,219 | 92,167,134 | -6,850,915 |
| 負債及び正味財産合計 | 142,629,291 | 154,164,706 | -11,535,415 |

# 予算対比正味財産増減計算書

平成30年 4月 1日から平成31年 3月31日まで

公益目的事業会計　　（単位:円）

| 科目 | 予算額 | 決算額 | 差異 |
|---|---|---|---|
| Ⅰ 一般正味財産増減の部 | | | |
| 1. 経常増減の部 | | | |
| (1) 経常収益 | | | |
| 基本財産運用益 | 1,600 | 694 | 906 |
| 基本財産受取利息 | 1,600 | 694 | 906 |
| 特定資産運用益 | 2,000 | 2,307 | -307 |
| 特定資産受取利息 | 2,000 | 2,307 | -307 |
| 受取会費 | 12,300,000 | 12,810,160 | -510,160 |
| 当年度会費 | 12,300,000 | 12,810,160 | -510,160 |
| 事業収益 | 161,796,258 | 152,727,850 | 9,068,408 |
| 学術大会事業収益 | 161,146,258 | 152,380,350 | 8,765,908 |
| 大会参加料収入 | 109,332,066 | 102,842,920 | 6,489,146 |
| 投稿料収入 | 19,345,012 | 19,180,800 | 164,212 |
| 団体展示料収入 | 25,920,000 | 23,113,680 | 2,806,320 |
| 大学インフォメーションパネル収入 | 700,000 | 912,600 | -212,600 |
| 書籍展示料収入 | 1,400,000 | 1,351,080 | 48,920 |
| パンフレットデスク収入 | 61,020 | 64,800 | -3,780 |
| 会議室使用料収入 | 2,000,000 | 2,623,860 | -623,860 |
| 懇親会収入 | 900,000 | 671,320 | 228,680 |
| 学協会出展料 | 488,160 | 421,200 | 66,960 |
| その他 | 1,000,000 | 1,198,090 | -198,090 |
| 刊行事業収益 | 650,000 | 347,500 | 302,500 |
| JGL広告料収入 | 650,000 | 347,500 | 302,500 |
| 受取補助金等 | 838,260 | 628,696 | 209,564 |
| 25年度科学研究費補助金研究成果公開促進費 | 838,260 | 628,696 | 209,564 |
| 受取寄付金 | 5,300,000 | 5,937,600 | -637,600 |
| 地球惑星科学振興西田賞 | 5,000,000 | 5,000,000 | 0 |
| 会員寄付 | 300,000 | 937,600 | -637,600 |
| 雑収益 | 21,000 | 30,660 | -9,660 |
| 受取利息 | 18,000 | 443 | 17,557 |
| その他 | 3,000 | 30,217 | -27,217 |
| 経常収益計 | **180,259,118** | **172,137,967** | **8,121,151** |
| (2) 経常費用 | | | |
| 事業費 | 190,470,320 | 171,774,854 | 18,695,466 |
| 給料手当 | 24,575,000 | 25,659,873 | -1,084,873 |
| 法定福利費 | 2,927,000 | 3,668,154 | -741,154 |
| 臨時雇賃金 | 4,034,000 | 3,634,954 | 399,046 |
| ホームページ作成費 | 0 | 175,000 | -175,000 |
| その他アルバイト | 4,034,000 | 3,426,954 | 607,046 |
| ジャーナル担当 | 0 | 33,000 | -33,000 |
| 退職慰労金 | 0 | 752,000 | -752,000 |
| 退職給付費用 | 510,000 | 180,000 | 330,000 |
| 会議費 | 7,405,400 | 6,633,579 | 771,821 |
| 旅費交通費 | 18,603,830 | 14,306,181 | 4,297,649 |
| 通勤費 | 1,738,830 | 1,704,994 | 33,836 |
| 交通費 | 16,865,000 | 12,601,187 | 4,263,813 |
| 通信運搬費 | 3,919,000 | 3,482,248 | 436,752 |
| 減価償却費 | 6,550,000 | 6,623,805 | -73,805 |
| 消耗什器備品費 | 100,000 | 0 | 100,000 |
| 消耗品費 | 4,106,000 | 2,939,932 | 1,166,068 |
| 保守費 | 5,400,000 | 6,290,407 | -890,407 |
| 印刷製本費 | 17,925,000 | 14,374,123 | 3,550,877 |
| プログラム編集費 | 500,000 | 475,200 | 24,800 |
| プログラム印刷製本費 | 3,284,000 | 2,496,420 | 787,580 |
| ポスター製作費 | 280,000 | 205,413 | 74,587 |
| JGL印刷費 | 4,996,000 | 3,359,146 | 1,636,854 |
| ジャーナル印刷 | 8,000,000 | 6,969,736 | 1,030,264 |
| その他 | 865,000 | 868,208 | -3,208 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 図書費 | 300,000 | 0 | 300,000 |
| 出展費 | 270,000 | 242,507 | 27,493 |
| 賃借料 | 64,248,940 | 57,791,646 | 6,457,294 |
| 事務所賃借料 | 2,960,000 | 3,041,568 | -81,568 |
| 事務機賃借料 | 250,000 | 336,960 | -86,960 |
| 会場賃借料 | 36,018,000 | 32,313,802 | 3,704,198 |
| 設備機材賃借料 | 24,157,440 | 21,903,567 | 2,253,873 |
| その他 | 863,500 | 195,749 | 667,751 |
| 諸謝金 | 1,488,000 | 1,778,000 | -290,000 |
| 租税公課 | 3,570,000 | 3,290,570 | 279,430 |
| 支払手数料 | 4,303,000 | 4,835,536 | -532,536 |
| 支払賛助金 | 970,000 | 918,000 | 52,000 |
| 委託費 | 11,912,000 | 8,610,849 | 3,301,151 |
| システム関連費 | 3,000,000 | 3,433,320 | -433,320 |
| その他 | 8,912,000 | 5,177,529 | 3,734,471 |
| 雑費 | 870,000 | 525,330 | 344,670 |
| 保険料 | 83,150 | 168,580 | -85,430 |
| 広告宣伝費 | 1,400,000 | 68,580 | 1,331,420 |
| 表彰費 | 5,000,000 | 5,000,000 | 0 |
| 管理費 | 11,102,000 | 8,485,332 | 2,616,668 |
| 給料手当 | 5,300,000 | 4,326,983 | 973,017 |
| 法定福利費 | 300,000 | 0 | 300,000 |
| 退職給付費用 | 42,000 | 0 | 42,000 |
| 会議費 | 30,000 | 3,720 | 26,280 |
| 旅費交通費 | 1,600,000 | 1,236,636 | 363,364 |
| 通勤費 | 300,000 | 205,452 | 94,548 |
| 交通費 | 1,300,000 | 1,031,184 | 268,816 |
| 通信運搬費 | 150,000 | 94,858 | 55,142 |
| 消耗什器備品費 | 100,000 | 0 | 100,000 |
| 消耗品費 | 250,000 | 143,547 | 106,453 |
| 保守費 | 300,000 | 0 | 300,000 |
| 賃借料 | 950,000 | 762,816 | 187,184 |
| 事務所賃借料 | 800,000 | 678,576 | 121,424 |
| 事務機賃借料 | 100,000 | 84,240 | 15,760 |
| その他 | 50,000 | 0 | 50,000 |
| 諸謝金 | 1,300,000 | 1,285,200 | 14,800 |
| 租税公課 | 260,000 | 176,830 | 83,170 |
| 支払手数料 | 400,000 | 416,656 | -16,656 |
| 委託費 | 0 | 10,800 | -10,800 |
| その他 | 0 | 10,800 | -10,800 |
| 雑費 | 120,000 | 27,286 | 92,714 |
| **経常費用計** | **201,572,320** | **180,260,186** | **21,312,134** |
| 評価損益等調整前当期経常増減額 | -21,313,202 | -8,122,219 | -13,190,983 |
| 損益評価等計 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常増減額 | -21,313,202 | -8,122,219 | -13,190,983 |
| ２．経常外増減の部 | | | |
| (1) 経常外収益 | | | |
| 経常外収益計 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 経常外費用 | | | |
| 経常外費用計 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常外増減額 | 0 | 0 | 0 |
| 当期一般正味財産増減額 | | -8,122,219 | -13,190,983 |
| 一般正味財産期首残高 | | 81,538,438 | -81,538,438 |
| 一般正味財産期末残高 | | 73,416,219 | -94,729,421 |
| Ⅱ　指定正味財産増減の部 | | | |
| 受取寄付金 | 0 | 6,900,000 | -6,900,000 |
| 一般正味財産への振替額 | 0 | -5,628,696 | 5,628,696 |
| 当期指定正味財産増減額 | 0 | 1,271,304 | -1,271,304 |
| 指定正味財産期首残高 | 0 | 10,628,696 | -10,628,696 |
| 指定正味財産期末残高 | 0 | 11,900,000 | -11,900,000 |
| Ⅲ　正味財産期末残高 | | 85,316,219 | -106,629,421 |

# 正味財産増減計算書内訳表

平成30年 4月 1日から平成31年 3月31日まで

（単位：円）

| 科目 | 公益目的事業 | | 合計 |
|---|---|---|---|
| | 学術振興事業 | 法人会計 | |
| Ⅰ 一般正味財産増減の部 | | | |
| 1．経常増減の部 | | | |
| (1) 経常収益 | | | |
| 基本財産運用益 | 0 | 694 | 694 |
| 基本財産受取利息 | 0 | 694 | 694 |
| 特定資産運用益 | 2,307 | 0 | 2,307 |
| 特定資産受取利息 | 2,307 | 0 | 2,307 |
| 受取会費 | 6,405,080 | 6,405,080 | 12,810,160 |
| 当年度会費 | 6,405,080 | 6,405,080 | 12,810,160 |
| 事業収益 | 142,443,558 | 10,284,292 | 152,727,850 |
| 学術大会事業収益 | 142,096,058 | 10,284,292 | 152,380,350 |
| 大会参加料収入 | 92,558,628 | 10,284,292 | 102,842,920 |
| 投稿料収入 | 19,180,800 | 0 | 19,180,800 |
| 団体展示料収入 | 23,113,680 | 0 | 23,113,680 |
| 大学インフォメーションパネル収入 | 912,600 | 0 | 912,600 |
| 書籍展示料収入 | 1,351,080 | 0 | 1,351,080 |
| パンフレットデスク収入 | 64,800 | 0 | 64,800 |
| 会議室使用料収入 | 2,623,860 | 0 | 2,623,860 |
| 懇親会収入 | 671,320 | 0 | 671,320 |
| 学協会出展料 | 421,200 | 0 | 421,200 |
| その他 | 1,198,090 | 0 | 1,198,090 |
| 刊行事業収益 | 347,500 | 0 | 347,500 |
| JGL広告料収入 | 347,500 | 0 | 347,500 |
| 受取補助金等 | 628,696 | 0 | 628,696 |
| 25年度科学研究費補助金研究成果公開促進費 | 628,696 | 0 | 628,696 |
| 受取寄付金 | 5,937,600 | 0 | 5,937,600 |
| 地球惑星科学振興西田賞 | 5,000,000 | 0 | 5,000,000 |
| 会員寄付 | 937,600 | 0 | 937,600 |
| 雑収益 | 30,660 | 0 | 30,660 |
| 受取利息 | 443 | 0 | 443 |
| その他 | 30,217 | 0 | 30,217 |
| **経常収益計** | **155,447,901** | **16,690,066** | **172,137,967** |
| (2) 経常費用 | | | |
| 事業費 | 171,774,854 | 0 | 171,774,854 |
| 給料手当 | 25,659,873 | 0 | 25,659,873 |
| 法定福利費 | 3,668,154 | 0 | 3,668,154 |
| 臨時雇賃金 | 3,634,954 | 0 | 3,634,954 |
| ホームページ作成費 | 175,000 | 0 | 175,000 |
| その他アルバイト | 3,426,954 | 0 | 3,426,954 |
| ジャーナル担当 | 33,000 | 0 | 33,000 |
| 退職慰労金 | 752,000 | 0 | 752,000 |
| 退職給付費用 | 180,000 | 0 | 180,000 |
| 会議費 | 6,633,579 | 0 | 6,633,579 |
| 旅費交通費 | 14,306,181 | 0 | 14,306,181 |
| 通勤費 | 1,704,994 | 0 | 1,704,994 |
| 交通費 | 12,601,187 | 0 | 12,601,187 |
| 通信運搬費 | 3,482,248 | 0 | 3,482,248 |
| 減価償却費 | 6,623,805 | 0 | 6,623,805 |
| 消耗品費 | 2,939,932 | 0 | 2,939,932 |
| 保守費 | 6,290,407 | 0 | 6,290,407 |
| 印刷製本費 | 14,374,123 | 0 | 14,374,123 |
| プログラム編集費 | 475,200 | 0 | 475,200 |
| プログラム印刷製本費 | 2,496,420 | 0 | 2,496,420 |
| ポスター製作費 | 205,413 | 0 | 205,413 |
| JGL印刷費 | 3,359,146 | 0 | 3,359,146 |
| ジャーナル印刷 | 6,969,736 | 0 | 6,969,736 |
| その他 | 868,208 | 0 | 868,208 |
| 出展費 | 242,507 | 0 | 242,507 |
| 賃借料 | 57,791,646 | 0 | 57,791,646 |
| 事務所賃借料 | 3,041,568 | 0 | 3,041,568 |
| 事務機賃借料 | 336,960 | 0 | 336,960 |
| 会場賃借料 | 32,313,802 | 0 | 32,313,802 |
| 設備機材賃借料 | 21,903,567 | 0 | 21,903,567 |
| その他 | 195,749 | 0 | 195,749 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 諸謝金 | 1,778,000 | 0 | 1,778,000 |
| 租税公課 | 3,290,570 | 0 | 3,290,570 |
| 支払手数料 | 4,835,536 | 0 | 4,835,536 |
| 支払賛助金 | 918,000 | 0 | 918,000 |
| 委託費 | 8,610,849 | 0 | 8,610,849 |
| システム関連費 | 3,433,320 | 0 | 3,433,320 |
| その他 | 5,177,529 | 0 | 5,177,529 |
| 雑費 | 525,330 | 0 | 525,330 |
| 保険料 | 168,580 | 0 | 168,580 |
| 広告宣伝費 | 68,580 | 0 | 68,580 |
| 表彰費 | 5,000,000 | 0 | 5,000,000 |
| 管理費 | 0 | 8,485,332 | 8,485,332 |
| 給料手当 | 0 | 4,326,983 | 4,326,983 |
| 会議費 | 0 | 3,720 | 3,720 |
| 旅費交通費 | 0 | 1,236,636 | 1,236,636 |
| 通勤費 | 0 | 205,452 | 205,452 |
| 交通費 | 0 | 1,031,184 | 1,031,184 |
| 通信運搬費 | 0 | 94,858 | 94,858 |
| 消耗品費 | 0 | 143,547 | 143,547 |
| 賃借料 | 0 | 762,816 | 762,816 |
| 事務所賃借料 | 0 | 678,576 | 678,576 |
| 事務機賃借料 | 0 | 84,240 | 84,240 |
| 諸謝金 | 0 | 1,285,200 | 1,285,200 |
| 租税公課 | 0 | 176,830 | 176,830 |
| 支払手数料 | 0 | 416,656 | 416,656 |
| 委託費 | 0 | 10,800 | 10,800 |
| その他 | 0 | 10,800 | 10,800 |
| 雑費 | 0 | 27,286 | 27,286 |
| **経常費用計** | **171,774,854** | **8,485,332** | **180,260,186** |
| 評価損益等調整前当期経常増減額 | −16,326,953 | 8,204,734 | −8,122,219 |
| 損益評価等計 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常増減額 | −16,326,953 | 8,204,734 | −8,122,219 |
| ２．経常外増減の部 | | | |
| (1) 経常外収益 | | | |
| 経常外収益計 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 経常外費用 | | | |
| 経常外費用計 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常外増減額 | 0 | 0 | 0 |
| **当期一般正味財産増減額** | **−16,326,953** | **8,204,734** | **−8,122,219** |
| 一般正味財産期首残高 | | | 81,538,438 |
| 一般正味財産期末残高 | | | 73,416,219 |
| Ⅱ　指定正味財産増減の部 | | | |
| 受取寄付金 | | | 6,900,000 |
| 一般正味財産への振替額 | | | −5,628,696 |
| 当期指定正味財産増減額 | | | 1,271,304 |
| 指定正味財産期首残高 | | | 10,628,696 |
| 指定正味財産期末残高 | | | 11,900,000 |
| Ⅲ　正味財産期末残高 | | | 85,316,219 |

# 財産目録

平成31年 3月31日現在

公益目的事業会計　　（単位:円）

| 貸借対照表科目 | | 場所・物量等 | 使用目的等 | 金　額 |
|---|---|---|---|---|
| (流動資産) | | | | |
| | 現金 | **手元保管** | 運転資金として | **49,586** |
| | 預金 | **当座預金** | 寄附金受取口座 | **772,946** |
| | | 郵貯振替口座 | | 772,946 |
| | | **普通預金** | 運転資金として | **68,456,095** |
| | | 三菱UFJ銀行本郷支店 | | 44,037,175 |
| | | りそな銀行本郷支店 | | 4,226 |
| | | ゆうちょ銀行 | | 569,181 |
| | | みずほ銀行本郷支店 | | 8,193,075 |
| | | みずほ銀行本郷支店 | | 3,973 |
| | | 千葉銀行東京営業部 | | 11,497,283 |
| | | 三菱UFJ銀行本郷支店 | | |
| | | 地球惑星科学振興西田賞口 | | 2,294 |
| | | 三井住友銀行小石川支店 | | 4,148,888 |
| | 未収金 | 地学ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ | コピー使用料 | **31,784** |
| | 未収消費税 | | | **505,200** |
| | 未成事業支出金 | | | **16,503,025** |
| | 学術振興事業 | | 学術振興事業費用の前払い分 | 16,503,025 |
| | 預け金 | | スプリンガー | **2,096,480** |
| | 前払費用 | | | **5,845,206** |
| | | | 事務所賃借料の前払い分 | 282,742 |
| | | | 2021年大会パシフィコ予約金 | 5,562,464 |
| | 仮払金 | レタープレス | | **780** |
| 流動資産合計 | | | | **94,261,102** |
| (固定資産) | | | | |
| 基本財産 | | | | |
| | **定期預金** | | | **5,000,000** |
| | 定期預金(一般) | | 公益目的保有財産である | 5,000,000 |
| 特定資産 | | | | **19,900,000** |
| | 定期大会参加促進事業積立資金 | | | 8,000,000 |
| | 地球惑星科学振興西田賞準備資金 | | | 10,000,000 |
| | 大会ｲﾝｾﾝﾃｨﾌﾞ資金 | | | 1,900,000 |
| その他固定資産 | | | | |
| | 什器備品 | | 公益目的保有財産である | **43,471** |
| | ｿﾌﾄｳｴｱ | | 公益目的保有財産である | **22,941,628** |
| | 保証金 | | | **483,090** |
| | 学会センタービル | | 事務所の保証金 | 483,090 |
| 固定資産合計 | | | | **48,368,189** |
| 資産合計 | | | | **142,629,291** |
| (流動負債) | | | | |
| | **未払金** | | | **8,339,094** |
| | | 労働基準監督署 | 確定労働保険料 | 163,395 |
| | | 西田賞 | 表彰費 | 5,000,000 |
| | | その他経費 | ﾌｭｰﾁｬﾘｽﾑﾜｰｸｽ・ﾘｱﾙﾃｯｸ等 | 3,175,699 |
| | **未払費用** | | | **2,538,877** |
| | 給料手当 | | 3月給与 | 2,136,070 |
| | 通勤手当 | | 3月通勤費 | 136,260 |
| | 健・厚保険料等 | | 3月法定福利費 | 266,547 |
| | **未成事業受入金** | | | **39,951,910** |
| | 学術振興事業 | | 学術振興事業収入の前受分 | 39,951,910 |
| | **前受会費** | | 会費収入の前受分 | **6,034,500** |
| | **預り金** | | | **447,691** |
| | 給与源泉税 | | | 328,200 |
| | 報酬源泉税 | | | 33,691 |
| | 社会保険料 | | | 85,800 |
| | その他 | | | |
| | **仮受金** | | | **1,000** |
| 流動負債合計 | | | | **57,313,072** |
| 負債合計 | | | | **57,313,072** |
| **正味財産** | | | | **85,316,219** |

# 財務諸表に対する注記及び附属明細書

平成31年3月31日現在

「公益法人会計基準」（平成20年4月11日　平成21年10月16日改正　内閣府公益認定等委員会）
を採用している。

1．継続事業の前提に関する注記
　　該当なし

2．重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法
　　該当なし

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
　　該当なし

(3) 固定資産の減価償却の方法
　　什器備品　　3年間の均等償却。
　　ソフトウエア定額法、

(4) 引当金の計上基準
　　該当なし

(5) キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
　　該当なし

(6) 消費税等の会計処理
　　税込方式によっている

3．会計方針の変更
　　昨年度から、昨今の大会参加者数、発表論文数、参加学会数、並びに国際連携の推進等に鑑み、法人の管理
　　重要性が増していること等を考慮し、大会参加料の法人会計への配分比率5%を10%に改訂し

4．基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

| 科　目 | 前期末残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | 当期末残高 |
|---|---|---|---|---|
| 基本財産 | | | | |
| 定期預金 | 5,000,000 | 0 | 0 | 5,000,000 |
| 基本財産計 | 5,000,000 | 0 | 0 | 5,000,000 |
| 特定資産 | | | | |
| 定期大会参加促進事業積立資金 | 12,000,000 | | 4,000,000 | 8,000,000 |
| 地球惑星科学振興西田賞 | 5,000,000 | 5,000,000 | 0 | 10,000,000 |
| 大会インセンティブ資金 | 0 | 1,900,000 | 0 | 1,900,000 |
| 特定資産資産計 | 17,000,000 | 6,900,000 | 4,000,000 | 19,900,000 |
| 合計 | 22,000,000 | 6,900,000 | 4,000,000 | 24,900,000 |

5．基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

| 科　目 | 当期末残高 | (うち指定正味財産からの充当額) | うち一般正味財産からの充当額 | (うち負債に対応する額) |
|---|---|---|---|---|
| 基本財産 | | | | |
| 定期預金 | 5,000,000 | | (5,000,000) | (0) |
| 基本財産計 | 5,000,000 | 0 | (5,000,000) | (0) |
| 特定資産 | | | | |
| 定期大会参加促進事業積立資金 | 8,000,000 | (8,000,000) | | (0) |
| 地球惑星科学振興西田賞 | 10,000,000 | (10,000,000) | | (0) |
| 大会インセンティブ資金 | 1,900,000 | (1,900,000) | | (0) |
| 特定資産計 | 19,900,000 | (19,900,000) | | (0) |
| 合計 | 24,900,000 | (19,900,000) | (5,000,000) | (0) |

6．担保に供している資産
　　該当なし

７．固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

| 科目 | 取得価額 | 減価償却累計 | 当期末残高 |
|---|---|---|---|
| 什器備品 | 1,260,865 | 1,217,394 | 43,471 |
| ソフトウエア | 55,256,180 | 32,314,552 | 22,941,628 |
| 合計 | 56,517,045 | 33,531,946 | 22,985,099 |

８．債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

該当なし

９．保証債務(債務保証を主たる目的事業としている場合を除く。)等の偶発債

該当なし

１０．満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

１１．補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

| 補助金の名称 | 交付者 | 前期末残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | 当期末残高 | 借対照上の記載区 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 科学研究費補助金 | 日本学術振興会 | 628,696 | 0 | 628,696 | 0 | 指定正味財産 |
| | | | | | | |
| | 合計 | 628,696 | 0 | 628,696 | 0 | |

１２．基金及び代替基金の増減額及びその残高

該当なし

１３．指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

| | |
|---|---|
| 平成25年度科研費補助金 | 628,696 |
| 地球惑星科学西田賞 | 5,000,000 |
| 合計 | 5,628,696 |

１４．関連当事者との取引の内容

該当なし

１５．キャッシュ・フロー計算書の資金の範囲及び重要な非資金取引

該当なし

１６．重要な後発事象

該当なし

17．その他公益法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産増減の状況を明らかにするために必要な事項

**附属明細書**

1.基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産については、財務諸表に対する注記5.に記載しており、内容の記載を省略する

2.引当金の明細

該当なし

# 監査報告書

平成 31 年 4 月 23 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合
代表理事（会長）川　幡　穂　高　殿

公益社団法人日本地球惑星科学連合
監事　鈴木　善和

私監事は、平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの公益社団法人日本地球惑星科学連合第 8 期事業年度における会計及び業務の監査を行った。その結果につき次のとおり報告します。

1.監査の方法の概要

（1）会計監査について、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と認められる監査手続きを用いて財務諸表の適正性を検討しました。

（2）業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、業務執行の妥当性を検討しました。

2.監査意見

（1）正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、公益社団法人日本地球惑星科学連合の第 8 期事業年度の正味財産増減の状況及び同事業年度末日現在の財政状態を適正に示しているものと認めます。

（2）事業報告書の内容は、事実に従い、公益社団法人日本地球惑星科学連合の状況を正しく示しているものと認めます。

（3）理事の業務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上

# 監査報告書

平成 31 年 4 月 23 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合
代表理事（会長）川　幡　穂　高　殿

公益社団法人日本地球惑星科学連合
監事　氷見山　幸夫

私監事は、平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの公益社団法人日本地球惑星科学連合　第 8 期事業年度における会計及び業務の監査を行った。その結果につき次のとおり報告します。

1.監査の方法の概要

（1）会計監査について、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と認められる監査手続きを用いて財務諸表の適正性を検討しました。

（2）業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、業務執行の妥当性を検討しました。

2.監査意見

（1）正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、公益社団法人日本地球惑星科学連合の第 8 期事業年度の正味財産増減の状況及び同事業年度末日現在の財政状態を適正に示しているものと認めます。

（2）事業報告書の内容は、事実に従い、公益社団法人日本地球惑星科学連合の状況を正しく示しているものと認めます。

（3）理事の業務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上

# 監査報告書

平成 31 年 4 月 23 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合
代表理事（会長）川　幡　穂　高　殿

公益社団法人日本地球惑星科学連合
監　　事　　加　藤　照　之

私監事は、平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの公益社団法人日本地球惑星科学連合　第 8 期事業年度における会計及び業務の監査を行った。その結果につき次のとおり報告します。

1.監査の方法の概要

（1）会計監査について、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と認められる監査手続きを用いて財務諸表の適正性を検討しました。

（2）業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、業務執行の妥当性を検討しました。

2.監査意見

（1）正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、公益社団法人日本地球惑星科学連合の第 8 期事業年度の正味財産増減の状況及び同事業年度末日現在の財政状態を適正に示しているものと認めます。

（2）事業報告書の内容は、事実に従い、公益社団法人日本地球惑星科学連合の状況を正しく示しているものと認めます。

（3）理事の業務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上